

動物看護学科 3年制  
動物管理学科 2年制

シ ラ バ ス

—2024—



学校法人昭徳学園 九州動物学院



# シラバスについて

シラバスは各学科で行なわれる授業科目の内容を科目担当講師の先生が、授業概要、成績評価の方法、教材、さらに授業内容の進め方についてまとめられたものを集大成したものです。順序とか内容について説明の不足する部分については担当教科の授業中に講師の先生方から補足されます。シラバスは全ての科目について準備されなければなりません、特別講義では講師の都合によりテーマの変更があったり講師がかわったりします、また海外研修では、場所などが変更になるので、シラバスはその都度作成されます。

さて、このシラバスを理解し利用することは、学生諸君にとって

- (1) 各教科で、どんなことを、何時頃学ぶのか
- (2) そのためにどんな準備をして講義、実習に望むべきか
- (3) 学習に対し、予習して、準備することが可能であるか
- (4) 学習の前後の関係が判り、復習が容易となる
- (5) 参考書も検討できる

などの利点があります。また講師の先生方にも授業をしっかりと計画していただくための基本ともなります。

シラバスは科目ごとに授業の内容が重複しないように配慮していますが、重要な科目や要点などは意識的に重複しているところがあります。また、必ずしも十分に重複に配慮できていないところもあると思いますが、そのような点についてはいずれ修正していくつもりでおります。

学生諸君には、自分達の学ぶ科目とその内容についてあらかじめ理解し、より深く、より充実した学習を受けられるよう期待しています。

学院長 徳田 竜之介



カリキュラム

1 動物看護学科

		合計		1年次		2年次		3年次	
分野	履修科目	履修時間	単位	授業時間	単位	授業時間	単位	授業時間	単位
基礎動物学	生命倫理・動物福祉	30	1	30	1				
	動物形態機能学	150	5	60	2	90	3		
	動物繁殖学	30	1	30	1				
	動物行動学	30	1	30	1				
	動物栄養学	60	2	30	1	30	1		
	比較動物学	60	2			30	1	30	1
	動物看護関連法規	15	1			15	1		
	動物愛護・適正飼養関連法規	15	1			15	1		
基礎動物看護学	動物看護学概論	30	1	30	1				
	動物病理学	30	1			30	1		
	動物薬理学	60	2			60	2		
	動物感染症学	90	3	60	2	30	1		
	公衆衛生学	60	2			30	1	30	1
臨床動物看護学	動物内科看護学	90	3	30	1	60	2		
	動物外科看護学	60	2			60	2		
	動物臨床看護学総論	30	1	30	1				
	動物臨床看護学各論	120	4	30	1	30	1	60	2
	動物臨床検査学	30	1	30	1				
	動物医療コミュニケーション	30	1			30	1		
愛護適正飼養学	愛玩動物学	60	2	60	2				
	人と動物の関係学	30	1	30	1				
	適正飼養指導論	60	2			60	2		
	動物生活環境学	30	1	30	1				
	ペット関連産業概論	30	1					30	1
実習	動物形態機能学実習	30	1	30	1				
	動物内科看護学実習	120	4	120	4				
	動物臨床検査学実習	60	2			60	2		
	動物外科看護学実習	105	4	45	2	60	2		
	動物臨床看護学実習	60	2			60	2		
	動物愛護・適正飼養実習	60	2	60	2				
	動物看護総合実習	180	6			180	6		
その他	動物理学療法	15	1	15	1				
	グリーンケア概論	30	1					30	1
	訓練学	120	4	30	1	30	1	60	2
	動物理学療法学	60	2					60	2
	動物理学療法学実習	60	2					60	2
	動物の疼痛管理学	30	1					30	1
	幼齢動物看護学	15	1					15	1
	高齢動物看護学	15	1					15	1
	動物皮膚病学	30	1					30	1
	動物歯科学	30	1	30	1				
	愛玩動物飼養管理学	15	1	15	1				
	ペットアロママッサージ	60	2	30	1	30	1		
	分子遺伝学入門	30	1	30	1				
	海外研修/掃除学	15	1	15	1				
	特別講義	30	1			30	1		
	飼育実習	90	3	90	3				
	動物病院総合実習	120	4					120	4
	英会話	15	1	15	1				
	パソコン	15	1	15	1				
	プレゼンテーションスキル	30	1					30	1
	コミュニケーショントレーニング	30	1					30	1
	ビジネスマナー	75	3	15	1	30	1	30	1
	ライセンス対策	75	3	15	1	30	1	30	1
	統合演習	510	17					510	17
	トリミング	240	8	120	4	120	4		
	(a)	授業時間および単位数 小計	3600	126	1200	44	1200	41	1200
演習	海外研修	64	2			64	2		
	合宿研修	64	2	64	2				
	ブレイクターンシップ	32	1	32	1				
	インターンシップ	200	5						
	校外学習	32	1						
	社会活動		1						
(b)	演習時間および単位数 小計	328	10	96	3				
	卒業に必要な時間数および単位数 合計 (a+b)	3992	138	1296	47	1264	43	1200	41

2 動物管理学科管理コース

分野	履修科目	合計		1年次		2年次	
		履修時間	単位	授業時間	単位	授業時間	単位
基礎動物学	生命倫理・動物福祉	30	1	30	1		
	動物形態機能学	150	5	60	2	90	3
	動物繁殖学	30	1	30	1		
	動物行動学	30	1	30	1		
	動物栄養学	60	2	30	1	30	1
	比較動物学	30	1			30	1
基礎動物看護学	動物看護学概論	30	1	30	1		
	動物病理学	30	1			30	1
	動物感染症学	90	3	60	2	30	1
	公衆衛生学	30	1			30	1
臨床動物看護	動物内科看護学	90	3	30	1	60	2
	動物外科看護学	60	2			60	2
	動物臨床看護学総論	30	1	30	1		
	動物臨床看護学各論	60	2	30	1	30	1
	動物臨床検査学	30	1	30	1		
愛護適正飼	愛玩動物学	60	2	60	2		
	人と動物の関係学	30	1	30	1		
	動物生活環境学	30	1	30	1		
実習	動物形態機能学実習	30	1	30	1		
	動物内科看護学実習	120	4	120	4		
	動物外科看護学実習	45	2	45	2		
	動物愛護・適正飼養実習	60	2	60	2		
その他	動物理学療法	15	1	15	1		
	販売学	30	1			30	1
	訓練学	210	7	30	1	180	6
	動物歯科学	30	1	30	1		
	愛玩動物飼養管理学	15	1	15	1		
	ペットアロママッサージ	60	2	30	1	30	1
	分子遺伝学入門	30	1	30	1		
	海外研修/掃除学	15	1	15	1		
	特別講義	30	1			30	1
	飼育実習	90	3	90	3		
	英会話	15	1	15	1		
	パソコン	15	1	15	1		
	ビジネスマナー	45	2	15	1	30	1
	ライセンス対策	15	1	15	1		
	就職支援	30	1			30	1
	トリミング	480	16	120	4	360	12
	動物園等実習	120	4			120	4
(a)	授業時間および単位数 小計	2400	84	1200	44	1200	40
演習	海外研修	64	2			64	2
	合宿研修	64	2	64	2		
	プレインターンシップ	32	1	32	1		
	インターンシップ	200	5				
	校外学習	32	1				
	社会活動		1				
(b)	演習時間および単位数 小計	392	12	96	3	64	2
	卒業に必要な時間数および単位数 合計(a+b)	2792	96	1296	47	1264	42

3 動物管理学科トリマーコース

分野	履修科目	合計		1年次		2年次	
		履修時間	単位	授業時間	単位	授業時間	単位
基礎動物学	生命倫理・動物福祉	30	1	30	1		
	動物形態機能学	150	5	60	2	90	3
	動物繁殖学	30	1	30	1		
	動物行動学	30	1	30	1		
	動物栄養学	60	2	30	1	30	1
	比較動物学	30	1			30	1
基礎動物看護	動物看護学概論	30	1	30	1		
	動物感染症学	60	2	60	2		
	公衆衛生学	30	1			30	1
臨床動物看護	動物内科看護学	90	3	30	1	60	2
	動物外科看護学	60	2			60	2
	動物臨床看護学総論	30	1	30	1		
	動物臨床看護学各論	60	2	30	1	30	1
	動物臨床検査学	30	1	30	1		
愛護正飼養学	愛玩動物学	60	2	60	2		
	人と動物の関係学	30	1	30	1		
	動物生活環境学	30	1	30	1		
	動物形態機能学実習	30	1	30	1		
実習	動物内科看護学実習	120	4	120	4		
	動物外科看護学実習	45	2	45	2		
	動物愛護・適正飼養実習	60	2	60	2		
	動物理学療法	15	1	15	1		
その他	販売学	30	1			30	1
	訓練学	90	3	30	1	60	2
	動物歯科学	30	1	30	1		
	愛玩動物飼養管理学	15	1	15	1		
	ペットアロママッサージ	30	1	30	1		
	分子遺伝学入門	30	1	30	1		
	海外研修/掃除学	15	1	15	1		
	特別講義	30	1			30	1
	飼育実習	90	3	90	3		
	英会話	15	1	15	1		
	パソコン	15	1	15	1		
	ビジネスマナー	15	1	15	1		
	ライセンス対策	15	1	15	1		
	就職支援	30	1			30	1
	トリミング	840	28	120	4	720	24
	トリミング	840	28	120	4	720	24
(a)	授業時間および単位数 小計	2400	84	1200	44	1200	40
演習	海外研修	64	2			64	2
	合宿研修	64	2	64	2		
	プレインターンシップ	32	1	32	1		
	インターンシップ	200	5				
	校外学習	32	1				
	社会活動		1				
(b)	演習時間および単位数 小計	392	12	96	3	64	2
	卒業に必要な時間数および単位数 合計(a+b)	2792	96	1296	47	1264	42

# 目次

シラバスについて	
カリキュラム	1
一年次科目 ー全学科共通ー	7
生命倫理・動物福祉	9
動物形態機能学Ⅰ	10
動物形態機能学Ⅱ	11
動物繁殖学	12
動物行動学	13
動物臨床栄養学Ⅰ	14
動物看護学概論	15
動物感染症学Ⅰ	16
動物感染症学Ⅱ	16
動物内科看護学Ⅰ	18
動物臨床看護学総論	19
動物臨床看護学各論Ⅰ	20
動物臨床検査学	21
愛玩動物学Ⅰ	22
愛玩動物学Ⅱ	23
人と動物の関係学	24
動物生活環境学	25
動物形態機能学実習	26
動物内科看護学実習Ⅰ	27
動物内科看護学実習Ⅱ	28
動物外科看護学実習Ⅰ	29
動物外科看護学実習Ⅱ	30
動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	31
動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	32
動物理学療法Ⅰ	33
動物理学療法Ⅱ	34
訓練学Ⅰ	35
動物歯科学	36
愛玩動物飼養管理学	37
ペットアロママッサージⅠ	38
分子遺伝学入門	39
海外研修	40
掃除学	41
飼育実習Ⅰ	42
飼育実習Ⅱ	43
英会話	44
パソコン	45
ビジネスマナーⅠ	46
ライセンス対策Ⅰ	47
トリミング実習Ⅰ	48
トリミング実習Ⅱ	49
二年次科目 ー動物看護学科ー	51
動物形態機能学Ⅲ	53
動物形態機能学Ⅳ	54
動物形態機能学Ⅴ	55
動物臨床栄養学Ⅱ	56
比較動物学Ⅰ	57
動物看護関連法規	58
動物愛護・適正飼養関連法規	59
動物病理学	60
動物薬理学Ⅰ	61
動物薬理学Ⅱ	62
動物感染症学Ⅲ	63
公衆衛生学Ⅰ	64
動物内科看護学Ⅱ	65
動物内科看護学Ⅲ	66
動物外科看護学Ⅰ	67
動物外科看護学Ⅱ	68
動物臨床看護学各論Ⅱ	69
動物医療コミュニケーション	70
適性飼養指導論Ⅰ	71
適性飼養指導論Ⅱ	72
動物臨床検査学実習Ⅰ	73
動物臨床検査学実習Ⅱ	74
動物外科看護学実習Ⅲ	75
動物外科看護学実習Ⅳ	76
動物臨床看護学実習Ⅰー①	77
動物臨床看護学実習Ⅰー②	78
動物臨床看護学実習Ⅰー③	79
動物臨床看護学実習Ⅱー①	80
動物臨床看護学実習Ⅱー②	81
動物臨床看護学実習Ⅱー③	82
動物看護総合実習Ⅰー①	83
動物看護総合実習Ⅰー②	84
動物看護総合実習Ⅰー③	84
動物看護総合実習Ⅱー①	86
動物看護総合実習Ⅱー②	87
動物看護総合実習Ⅱー③	88
動物看護総合実習Ⅲー①	89
動物看護総合実習Ⅲー②	90
動物看護総合実習Ⅳー①	91
動物看護総合実習Ⅳー②	92
訓練学Ⅱ	93
ペットアロママッサージⅡ	94
特別講義	95
ビジネスマナーⅡ	96
ライセンス対策Ⅱ	97
プレゼンテーションスキル	98
トリミング実習Ⅲ	99
トリミング実習Ⅳ	100
二年次科目 ー動物管理学科(管理コース)ー	1011
動物形態機能学Ⅲ	103
動物形態機能学Ⅳ	104



動物形態機能学Ⅴ	105	訓練学Ⅶ	156
動物臨床栄養学Ⅱ	106	動物理学療法学Ⅰ	157
比較動物学Ⅰ	107	動物理学療法学Ⅱ	158
動物感染症学Ⅲ	109	動物理学療法学実習Ⅰ	159
公衆衛生学Ⅰ	134	動物理学療法学実習Ⅱ	160
動物内科看護学Ⅱ	110	動物の疼痛管理学	161
動物内科看護学Ⅲ	111	幼齢動物看護学	162
動物外科看護学Ⅰ	135	高齢動物看護学	163
動物外科看護学Ⅱ	136	動物皮膚病学	164
動物臨床看護学各論Ⅱ	114	動物病院総合実習Ⅰ	165
訓練学Ⅱ	115	動物病院総合実習Ⅱ	166
訓練学Ⅲ	116	プレゼンテーションスキル	168
訓練学Ⅳ	117	コミュニケーショントレーニング	168
訓練学Ⅴ	118	ビジネスマナーⅢ	169
販売学	119	ライセンス対策Ⅲ	170
ペットアロママッサージⅡ	120	統合演習Ⅰ	172
特別活動	121	統合演習Ⅱ	172
ビジネスマナーⅡ	122		
就職支援	123		
トリミング実習Ⅴ	124		
トリミング実習Ⅵ	125		
動物園等実習	126		
二年次科目 ー動物管理学科 (トリマーコース) ー	127		
動物形態機能学Ⅲ	129		
動物形態機能学Ⅳ	130		
動物形態機能学Ⅴ	131		
動物臨床栄養学Ⅱ	132		
比較動物学Ⅰ	133		
公衆衛生学Ⅰ	136		
動物内科看護学Ⅱ	135		
動物内科看護学Ⅲ	136		
動物外科看護学Ⅰ	135		
動物外科看護学Ⅱ	136		
動物臨床看護学各論Ⅱ	139		
訓練学Ⅱ	140		
訓練学Ⅲ	141		
販売学	142		
特別講義	143		
就職支援	144		
トリミング実習Ⅶ	145		
トリミング実習Ⅷ	146		
三年次科目 ー動物看護学科ー	147		
比較動物学Ⅱ	149		
動物感染症学Ⅲ	150		
公衆衛生学Ⅱ	150		
動物臨床看護学各論Ⅲ	151		
動物臨床看護学各論Ⅳ	152		
ペット関連産業概論	153		
グリーフケア概論	154		
訓練学Ⅵ	155		



# 一年次科目

—全学科共通—



科 目				担 当		
<b>生命倫理・動物福祉</b>				本田公三（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・生命倫理の考え方および動物愛護・動物福祉について学ぶ。人と動物が共存するために必要なものは何かを理解する。					
<b>授業概要</b>	・動物の権利、福祉の理念、保護・福祉制度の歴史を学び、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物、伴侶動物を対象に福祉の問題点をさぐる。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>・愛玩動物看護師の教科書 第1巻 基礎動物学（緑書房）</li> <li>・動物看護学（総論）日本動物看護学会編（インターズー）</li> <li>・動物看護学全書 動物看護学総論（日本獣医師会）</li> <li>・小動物獣医看護学 小動物看護の基本と実践ガイド（インターズー）</li> <li>・アニマルウェルフェア（東京大学出版会）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	生命倫理の概念①	(1)動物福祉の考え方について理解する				
2	生命倫理の概念②	(2)「5つの自由」（飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由）について理解する。				
3	動物福祉の概念①	(1)動物福祉の考え方について理解する。 (2)「5つの自由」（飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由）について理解する。 (3)世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する。				
4	動物福祉の概念②	(4)「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する。 (5)動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する。 (6)安楽死の考え方について理解する。				
5	愛玩動物の福祉①	(1)愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する。				
6	愛玩動物の福祉②	(2)国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する。 (3)飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する。				
7	愛玩動物の福祉③	(4)動物のみだりな殺傷・虐待（積極的な虐待とネグレクト）の現状、対策について理解する。 (5)飼養動物の災害時の対応について理解する。				
8	産業動物の福祉①	(1)産業動物における福祉上の問題について理解する。				
9	産業動物の福祉②	(2)国際的な福祉基準について理解する。 (3)産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する。				
10	実験動物の福祉①	(1)実験動物における福祉上の問題について理解する。				
11	実験動物の福祉②	(2)3R（Replacement（代替）、Reduction（削減）、Refinement（改善））の概念と具体的方法について理解する。				
12	展示動物の福祉①	(1)展示動物における福祉上の問題について理解する。				
13	展示動物の福祉②	(2)展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物形態機能学 I				北島眞実子 (獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学 I (ファームプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 生命のすがた	(1)細胞の構造について理解する。				
2	1. 生命のすがた	(2)DNAの働きについて理解する。				
3	1. 生命のすがた	(3)上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する。				
4	1. 生命のすがた	(4)器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する。				
5	2. 循環器とその調節	(1)心臓の構造について理解する。				
6	2. 循環器とその調節	(2)心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する。				
7	2. 循環器とその調節	(3)ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する。				
8	2. 循環器とその調節	(4)心臓機能の調節機構について理解する。				
9	2. 循環器とその調節	(5)血管の種類と構造、機能について理解する。				
10	2. 循環器とその調節	(6)血圧調節機構について理解する。				
11	3. 呼吸器とその調節	(1)呼吸器の構造について理解する。				
12	3. 呼吸器とその調節	(2)換気の仕組みについて理解する。 (3)肺胞におけるガス交換について理解する。				
13	3. 呼吸器とその調節	(4)血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する。 (5)呼吸運動の調節機構について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物形態機能学Ⅱ				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15：00～16：30			
回	テーマ	授業内容				
1	4. 消化器と栄養代謝	(1)消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能について理解する。				
2	4. 消化器と栄養代謝	〃				
3	4. 消化器と栄養代謝	(2)唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能について理解する。				
4	4. 消化器と栄養代謝	〃				
5	4. 消化器と栄養代謝	(3)消化と吸収の仕組みについて理解する。				
6	4. 消化器と栄養代謝	(4)各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝について理解する。				
7	5. 内分泌とホルモン	(1)内分泌の定義について理解する。				
8	5. 内分泌とホルモン	(2)ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する。				
9	5. 内分泌とホルモン	〃				
10	5. 内分泌とホルモン	(3)主な内分泌臓器の構造と機能について理解する。				
11	5. 内分泌とホルモン	〃				
12	5. 内分泌とホルモン	(4)主なホルモンの作用と標的器官について理解する。				
13	5. 内分泌とホルモン	〃				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物繁殖学				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬と猫、その他の動物の繁殖生理について学び、性行動、妊娠分娩、避妊去勢の知識を習得する。また、生殖器の構造、受精と着床のしくみ、妊娠の診断法や正常分娩と異常分娩の違いや、産褥期における母胎と新生子の管理などについて詳しく学ぶ。さらに遺伝についても基本を押さえる。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子の管理、遺伝学的概要を学ぶ。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学 I（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週月曜日	3限目	13：20～14：50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 生殖器の形態と機能	(1)生殖器（雌・雄）の基本構造について理解する。				
2	1. 生殖器の形態と機能	(2)主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する。				
3	1. 生殖器の形態と機能	(3)雄の繁殖生理について理解する。 (4)雌の繁殖生理について理解する。				
4	2. 性周期と交配	(1)性成熟と発情徴候について理解する。 (2)排卵（自然排卵・交尾排卵）の仕組みについて理解する。				
5	2. 性周期と交配	(3)性周期と腔細胞スメアの関係について理解する。 (4)交配適期の決定法について理解する。				
6	3. 妊娠と分娩	(1)着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する。 (2)妊娠期間、偽妊娠について理解する。				
7	3. 妊娠と分娩	(3)分娩と助産、帝王切開について理解する。				
8	3. 妊娠と分娩	(4)去勢・不妊手術について理解する。				
9	3. 妊娠と分娩	(5)人工授精について理解する。				
10	4. 新生子管理	(1)新生子のための飼養環境について理解する。				
11	4. 新生子管理	(2)初乳の意義と哺乳について理解する。 (3)新生子の発育過程について理解する。				
12	5. 遺伝学概論	(1)遺伝のメカニズムについて理解する。				
13	5. 遺伝学概論	(2)さまざまな遺伝様式（顕性・潜性、伴性遺伝など）について理解する。 (3)遺伝子疾患、発生異常について理解する。				
14	まとめ	まとめ				
15	まとめ					



科 目				担 当		
<b>動物行動学</b>				大塚敦子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。</li> <li>・生物学上の観点から犬と猫の発生起源と歴史を理解し、基本的行動の意義または機序を学ぶ。行動の発達ステージと発達過程、生得的行動、習得的行動、個体と社会的行動、コミュニケーション行動とボディランゲージ、性行動を理解できる。しつけトレーニングでは基本的なしつけを理解し、適正飼育と人と動物の共生に寄与することを学ぶ。また犬猫の問題行動についても理解する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬猫の家畜化の歴史と種類、コミュニケーションとしつけトレーニング、問題行動への対応法などを学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> <li>・ペット社会学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	2 限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物行動学の基礎	(1)動物行動学の4つの問い (適応・進化・機構・発達) について理解する。 (2)行動の進化と適応、家畜化について理解する。				
2	1. 動物行動学の基礎	(3)生得的行動と学習行動について理解する。 (4)脳による行動制御について理解する。				
3	2. 個体維持行動	(1)摂食及び飲水行動について理解する。 (2)排泄行動について理解する。				
4	2. 個体維持行動	(3)身づくろい行動について理解する。 (4)護身行動について理解する。				
5	3. 発達過程と社会行動	(1)発達ステージ (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期) と各時期の行動学的特徴について理解する。 (2)生殖行動 (性行動・母性行動) について理解する。				
6	3. 発達過程と社会行動	(3)コミュニケーション行動について理解する。 (4)敵対行動と親和的行動について理解する。				
7	4. 学習理論	(1)行動形成について理解する。 (2)馴化と感作について理解する。				
8	4. 学習理論	(4)学習に影響を与える因子について理解する。 (5)基本的なトレーニング法 (トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み 対策など) について理解する。				
9	5. 問題行動	(1)問題行動の定義と要因 (遺伝的要因、生得的要因、環境要因) について理解する。 (2)攻撃行動の種類、原因 (動機づけ) と治療法について理解する。				
10	5. 問題行動	(3)恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する。 (4)不適切な排泄行動の原因 (動機づけ) と治療法について理解する。				
11	5. 問題行動	(5)高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する。				
12	6. 行動治療	(1)行動診療の進め方について理解する。				
13	6. 行動治療	(2)行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する。				
14	6. 行動治療	(3)行動治療における薬物療法について理解する。				
15	6. 行動治療	(3)行動治療における薬物療法について理解する。				

科 目			担 当			
動物栄養学 I			津田圭子 (獣医師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	・ 5 大栄養素を理解する。犬猫の必要栄養素の違いを理解する。ペットフードの表記を理解する。ライフステージの違いを理解する。BCS 評価及びカロリー計算ができるようにする。					
授業概要	・ 5 大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	90 点				10 点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60 点未満は再試とする。再試においては 80 点以上を合格とし、評価は C となる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物看護コアテキスト第 3 版 第 2 巻 基礎動物学 II (ファームプレス)</li> <li>・ √ルート計算の出来る電卓を各自用意</li> <li>・ 講師配付資料</li> </ul>					
参考書	・ 動物栄養学 (インターズー)					
授業計画	毎週月曜日	2 限目	10 : 50~12 : 20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 基礎栄養	(1) 5 大栄養素 (糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル) について理解する。				
2	1. 基礎栄養	(2) 栄養要求の種差 (必須アミノ酸、必須脂肪酸など) について理解する。				
3	1. 基礎栄養	(3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する。				
4	1. 基礎栄養	(4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する。				
5	1. 基礎栄養	(5) 栄養素の不足、過剰症について理解する。				
6	2. 栄養要求量	(1) エネルギー要求量 (RER、MER など) の意味と計算法について理解する。				
7	2. 栄養要求量	(2) 栄養基準 (AAFCO、NRC など) について理解する。				
8	2. 栄養要求量	(3) ライフステージ (成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期) ごとの栄養管理について理解する。				
9	3. フードと栄養指導	(1) ペットフードの種類、分類について理解する。				
10	3. フードと栄養指導	(2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる。				
11	3. フードと栄養指導	(3) 中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる。				
12	3. フードと栄養指導	(4) 栄養状態の評価法 (BCS、体脂肪測定など) について理解する。				
13	3. フードと栄養指導	"				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目			担 当			
動物看護学概論			池上美紀(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標 授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護の歴史と定義、動物看護者の倫理要綱、動物看護の実践的な役割について学ぶ。</li> <li>獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。</li> </ul>					
成績評価 の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学(ファームプレス)</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	4限目	13:20~14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物看護の基本となる概念	(1)動物看護の目的、概念について理解する。				
2	1. 動物看護の基本となる概念	(2)獣医療と動物看護の歴史について理解する。				
3	1. 動物看護の基本となる概念	(3)獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する。				
4	1. 動物看護の基本となる概念	(4)動物にとっての健康、福祉、QOLについて理解する。				
5	1. 動物看護の基本となる概念	(5)動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する。				
6	2. 動物看護の提供体制	(1)社会における動物病院の役割について理解する。				
7	2. 動物看護の提供体制	(2)一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する。				
8	2. 動物看護の提供体制	(3)インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する。				
9	2. 動物看護の提供体制	(4)診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する。				
10	2. 動物看護の提供体制	(5)職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する。				
11	3. 愛玩動物看護師の社会的立場	(1)愛玩動物看護師の職能団体について理解する。				
		(2)愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する。				
12	3. 愛玩動物看護師の社会的立場	(3)愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する。				
13	3. 愛玩動物看護師の社会的立場	(4)国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する動物看護とは何か。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物感染症学 I</b>				古田祥史（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染、感染症、発症などの定義、感染症の成立条件、感染症の病原因子である細菌・真菌・ウイルスおよび原虫などに関する生物学的、物理化学的性状を学ぶ。更に、犬、猫等が罹患する主要な感染症とその感染経路、感染後の経過、臨床症状、診断、予防・治療方法、微生物学的検査方法、微生物材料の取り扱い方法等を学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 微生物の分類と特徴	(1)細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する。				
2	1. 微生物の分類と特徴	(2)ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する。				
3	1. 微生物の分類と特徴	"				
4	1. 微生物の分類と特徴	(3)真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する。				
5	1. 微生物の分類と特徴	"				
6	2. 微生物検査	(1)検体採取と取扱いについて理解する。				
7	2. 微生物検査	(2)無菌環境下での必要な手技について理解する。 (3)微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する。				
8	2. 微生物検査	"				
9	2. 微生物検査	(4)微生物培養法について理解する。				
10	2. 微生物検査	"				
11	2. 微生物検査	(5)抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（PCR 検査含む）について理解する。				
12	2. 微生物検査	"				
13	2. 微生物検査	(6)薬剤感受性試験について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物感染症学Ⅱ</b>				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染、感染症、発症などの定義、感染症の成立条件、感染症の病原因子である細菌・真菌・ウイルスおよび原虫などに関する生物学的、物理化学的性状を学ぶ。更に、犬、猫等が罹患する主要な感染症とその感染経路、感染後の経過、臨床症状、診断、予防・治療方法、微生物学的検査方法、微生物材料の取り扱い方法等を学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛玩動物看護師の教科書第3巻 基礎動物看護学（緑書房）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3限目	15：00～16：30			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 寄生虫の分類と特徴	(1)原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する。				
2	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
3	3. 寄生虫の分類と特徴	(2)蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する。				
4	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
5	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
6	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
7	3. 寄生虫の分類と特徴	(3)衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する。				
8	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
9	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
10	3. 寄生虫の分類と特徴	(4)寄生虫疾患の検査、診断法について理解する。				
11	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
12	3. 寄生虫の分類と特徴	(5)駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する。				
13	3. 寄生虫の分類と特徴	〃				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学 I				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1 年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインや BCS についても学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100 点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60 点未満は再試とする。再試においては 80 点以上を合格とし、評価は C となる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>・犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3 限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 健康の保持・増進	(1)健康診断の内容と目的について理解する。				
2	2. 診療補助に必要な技術	(1)診察における愛玩動物看護師の役割について理解する。 (2)診察室の準備と衛生管理について理解する。				
3	2. 診療補助に必要な技術	(3)動物種ごとの適切な接し方について理解する。 (4)保定の基本的な原理、目的、方法について理解する。				
4	2. 診療補助に必要な技術	(5)身体検査・アセスメント項目(体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間(CRT)、浅在リンパ節など)について理解する。				
5	3. 検査・処置に必要な技術	(1)注射器の取扱い及び管理方法について理解する。 (2)採血の目的と方法について理解する。				
6	3. 検査・処置に必要な技術	(3)採尿の目的と方法(穿刺、カテーテル導尿など)について理解する。 (4)穿刺と吸引について理解する。				
7	3. 検査・処置に必要な技術	(5)各種カテーテル挿入について理解する。 (6)酸素吸入について理解する。				
8	3. 検査・処置に必要な技術	(7)マイクロチップの挿入について理解する。				
9	4. 投薬に関わる技術	(1)薬の処方について理解する。 (2)内服薬の使用法について理解する。				
10	4. 投薬に関わる技術	(3)薬剤の注射法について理解する。				
11	4. 投薬に関わる技術	(4)外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する。 (5)投薬前後の注意事項について理解する。				
12	5. 輸液に関わる技術	(1)輸液の適応とリスクについて理解する。 (2)輸液計画について理解する。				
13	5. 輸液に関わる技術	(3)各種輸液剤の特性や適応について理解する。				
14	5. 輸液に関わる技術	(4)輸液中のモニタリングについて理解する。				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物臨床看護学総論				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護学で学習した動物看護過程の展開の復習と更なる展開。</li> <li>動物看護記録の作成について理解する。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学I (ファームプレス)</li> <li>動物看護実習テキスト (インターズー)</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物看護過程の展開	(1)動物看護過程の目的や意義、方法について理解する。 (2)動物看護過程の各ステップについて理解する。				
2	1. 動物看護過程の展開	(3)アセスメントについて理解する。 (4)事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する。				
3	1. 動物看護過程の展開	(5)問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する。				
4	1. 動物看護過程の展開	(6)動物看護過程の実施と評価について理解する。				
5	2. 診療記録	(1)診療録(カルテ)の作成方法について理解する。				
6	2. 診療記録	(2)動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する。				
7	3. 動物看護業務	(1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する。				
8	3. 動物看護業務	(2)ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する。				
9	3. 動物看護業務	(3)事故管理、防止システムについて理解する。 (4)若齢動物看護の特徴について理解する。				
10	3. 動物看護業務	(5)高齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する。				
11	3. 動物看護業務	(6)家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する。				
12	4. ターミナルケアに関わる技術	(1)ターミナルケアの目的と意義について理解する。 (2)QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する。				
13	4. ターミナルケアに関わる技術	(3)グリーフケアについて理解する。 (4)死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目			担 当			
動物臨床看護学各論 I			林田真琴（獣医師）			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30※	1※
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な措置。治療に関する基本的な知識を学ぶ、各々の機能障害をもつ応物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を取得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系、循環器、生殖器、造血器、免疫介在性疾患等についてその機序・評価・治療等について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学II（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト（エデュワードプレス）</li> </ul>					
授業計画	毎週月曜日	4限目	15：00～16：30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 徴候や疾患の理解と対処	(1)代表的な徴候や病態、疾患 (2)徴候の評価と記録法 (3)痛みの評価 (4)徴候・疾患に基づいた援助				
2	2. 代表的な徴候	(1)全身徴候 食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、削瘦				
3	(1) 代表的な徴候	(2) 異的徴候 運動不耐、咳、心雑音、不整脈（房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動）、高血圧、努力性呼吸				
4	2. 代表的な徴候	(2)特異的徴候 高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸				
5	2. 代表的な徴候	(2)特異的徴候 頻尿、血尿、多飲多尿、運動不耐、跛行、搔痒、発作				
6	2. 代表的な徴候	(2)特異的徴候 視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向				
7	2. 代表的な徴候	(3)特異的病態 尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固（DIC）				
8	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 検査 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア				
9	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存				
10	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症				
11	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 検査 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群				
12	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 気管支拡張症、気管支炎、肺炎				
13	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 肺水腫、猫喘息、膿胸				
14	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 ジステンパー、ケンネルコフ				
15	まとめ					



科 目				担 当		
<b>動物臨床検査学</b>				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	通年	講義	必修	30※	1※
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査では X 線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原則、心電図、内視鏡、CT、MRI の基本原則について学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト（インターズー）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 臨床検査の基礎	(1)臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する。 (2)基準値、感度、特異度、精度管理について理解する。				
2	1. 臨床検査の基礎	(3)検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）について理解する。				
3	2. 血液検査	(1)血漿、血清の分離法について理解する。				
4	2. 血液検査	(2)全血球計算法（CBC）について理解する。				
5	2. 血液検査	(3)血液塗抹の作製及び観察法について理解する。				
6	2. 血液検査	(4)ヘマトクリット管を用いた検査について理解する。 (5)凝固検査の目的と意義について理解する。				
7	2. 血液検査	(6)血液化学検査の目的と意義について理解する。				
8	2. 血液検査	(7)血液ガス検査の目的と意義について理解する。 (8)免疫学的検査の目的と意義について理解する。				
9	3. 尿検査	(1)尿の性状検査について理解する。 (2)尿沈渣について理解する。				
10	4. 糞便検査	(1)虫卵・原虫の検出法について理解する。				
11	4. 糞便検査	(2)細菌の観察法について理解する。				
12	5. 細胞診と病理組織検査	(1)細胞診断の目的と方法について理解する。 (2)病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する。				
13	6. 遺伝子検査	(1)細胞診断の目的と方法について理解する。 (2)病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、隔週交代で実施する。

※通年実施（30時間）で、1単位の認定となる。

科 目				担 当		
愛玩動物学 I				大塚敦子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1 年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬種、猫種による違いとその飼育目的を理解し、それぞれの特徴とその目的を学ぶ。家畜化された以降の歴史、文学、芸術上に表れた人間との関係、各種の特徴、行動、役用犬の役割、猫の特性、飼育、しつけ、健康管理を理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。</li> <li>犬猫の家畜化の歴史と種類、コミュニケーションとしつけトレーニング、問題行動への対応法などを学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100 点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60 点未満は再試とする。再試においては80 点以上を合格とし、評価はC となる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学 (ファームプレス)</li> <li>トレーニング学、ペット社会学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジュアル犬種百科図鑑、ビジュアル猫種百科図鑑 (緑書房)</li> </ul>					
授業計画	毎週木曜日	2 限目	10 : 50～12 : 20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 歴史と品種	(1)犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ (品種に適したグルーミングなど) について理解する。				
2	1. 歴史と品種	(2)猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ (品種に適したグルーミングなど) について理解する。				
3	1. 歴史と品種	(3)代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する。				
4	1. 歴史と品種	(4)血統と血統書について理解する。				
5	2. 使役動物	(1)使役動物 (犬、その他の動物) の歴史と福祉について理解する。				
6	2. 使役動物	(2)補助犬 (盲導犬、聴導犬、介助犬) の歴史と現状について理解する。				
7	2. 使役動物	(3)補助犬 (盲導犬、聴導犬、介助犬) の役割と育成、適性について理解する。				
8	2. 使役動物	(4)その他の使役犬 (災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など) の種類と特徴及び現状について理解する。				
9	3. 愛玩動物の飼養管理	(1)犬の適切な飼養管理方法 (飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など) について理解する。				
10	3. 愛玩動物の飼養管理	(2)猫の適切な飼養管理方法 (飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など) について理解する。				
11	4. 動物の基本的な取扱い	(1)動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する。				
12	4. 動物の基本的な取扱い	(2)基本的グルーミング (シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など) の目的・方法について理解する。				
13	4. 動物の基本的な取扱い	(3)適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
愛玩動物学Ⅱ				津田圭子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	通年	講義	必修	30	1
授業目標	・代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する					
授業概要	・愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	90点				10点	
	※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。					
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学（ファームプレス）・講師配付資料					
授業計画	毎週水曜日 4限目 15:00～16:30					
回	テーマ	授業内容				
1	愛玩動物の飼養管理	代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理解する。				
	〃					
2	〃	〃				
	〃					
3	〃	〃				
	〃					
4	〃	〃				
	〃					
5	〃	〃				
	〃					
6	〃	〃				
	〃					
7	〃	〃				
	〃					
8	〃	愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する。				
	〃					
9	〃	〃				
	〃					
10	〃	〃				
	〃					
11	〃	〃				
	〃					
12	〃	〃				
	〃					
13	〃	〃				
	〃					
14	〃	〃				
	〃					
15	まとめ					

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、隔週交代で実施する。

※通年実施（30時間）で、1単位の認定となる。

科 目				担 当		
<b>人と動物の関係学</b>				井上竜一(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と動物の絆（HAB）の理念と動物介在活動（AAA）動物介在教育（AAE）および動物介在療法（AAT）などの社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。HAB による人間と動物にもたらす影響とその目的を理解し、AAA・AAE・AAT の理念と目的を学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。</li> <li>動物の家畜化の歴史、人との絆、介在活動、介在教育、介在療法等について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学（ファームプレス）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	3限目	13：20～14：50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 人間と動物の関わり	(1)動物の飼養・利用の歴史について理解する。				
2	1. 人間と動物の関わり	(2)欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する。				
3	1. 人間と動物の関わり	(3)動物の飼養と利用の現状について理解する。				
4	2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり	(1)動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する。				
5	2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり	(2)多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）について理解する。				
6	2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり	(3)愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる 様々な事情について理解する。				
7	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	(1)動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する。				
8	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	"				
9	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	(2)動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する。				
10	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	"				
11	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	(3)動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する。				
12	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	(4)動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する。				
13	3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	(5)学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する（文部科学省が道徳教育の一環として認めていることを含む）。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物生活環境学</b>				井上竜一(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の習性行動様式を十分に理解し、様々な状況の中で飼育環境を整えることを学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材 参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学 (ファームプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 飼養環境整備	(1)動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法(問題行動予防を含む)について理解する。				
2	1. 飼養環境整備	(2)ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する。				
3	2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	(1)ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する。				
4	2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	(2)ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する。				
5	2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	(3)ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する。				
6	2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	(4)ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する。				
7	3. 保護収容施設	(1)動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する。				
8	3. 保護収容施設	(2)動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する。				
9	4. ペットへの教育・訓練施設	(1)動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する。				
10	5. 動物介在教育施設	(1)学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する。				
11	6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応	(1)飼育マナーの必要性や目的について理解する。 (2)飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する。				
12	6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応	(3)地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する。				
13	6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応	(4)愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する。 (5)ペット保険の仕組みと実態について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物形態機能学実習				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実習	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物形態機能学で学ぶ体の機能と働きについてその構造や仕組みについて、実際の動物や顕微鏡、模型などを使った実習をとおして深い理解に繋げる。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像等を通じて学ぶ。</li> <li>顕微鏡操作法、標本による骨格形態と機能を理解する、模型による内臓形態と機能の理解、主要臓器の組織像観察</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> <li>犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週月曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 運動器	(1)骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する。				
2	1. 運動器	(2)代表的な関節の名称と構造、機能について理解する。				
3	1. 運動器	〃				
4	1. 運動器	(3)代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する。				
5	1. 運動器	〃				
6	2. 内臓器官	(1)模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する。				
7	2. 内臓器官	(2)生殖器の雌雄差について理解する。				
8	3. 顕微鏡の取扱い	(1)顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する。				
9	3. 顕微鏡の取扱	(2)顕微鏡の適切な操作法について修得する。				
10	3. 顕微鏡の取扱	〃				
11	3. 顕微鏡の取扱	(3)顕微鏡の適切な管理法について修得する。				
12	4. 組織像の観察	(1)主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する。				
13	4. 組織像の観察	(2)組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学実習 I				吉川文香(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義・実習	必修	60	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬や猫の日常敵な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。</li> <li>・基礎で習得した知識を実践とし、診療現場に必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身につける。</li> <li>・また、手順や要領を考えた行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。診療補助、輸液管理、シリンジの扱い、衛生管理、入院管理、調剤、グルーミングについて学ぶ。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
授業計画	毎週木曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1	1. 身体検査	(1)全身状態 (意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む) を評価できる。				
2						
3	1. 身体検査	(2)バイタルサインを評価できる (体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間 (CRT)、股動脈圧)。				
4						
5	2. 診察補助	(1)診察の準備や診察室の衛生管理ができる。				
6						
7	2. 診察補助	(2)基本的な保定を実施することができる。				
8						
9	2. 診察補助	(3)聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる。				
10						
11	2. 診察補助	(4)採血・採尿 (尿カテーテルの挿入を含む) の手順を習得している。				
12						
13	2. 診察補助	〃				
14						
15	2. 診察補助	(5)薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している。				
16						
17	3. 輸液・輸血に関わる技術	(1)留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる。				
18						
19	3. 輸液・輸血に関わる技術	(2)輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる。				
20						
21	3. 輸液・輸血に関わる技術	〃				
22						
23	3. 輸液・輸血に関わる技術	(3)輸液・輸血中の動物を管理できる。				
24						
25	4. マイクロチップに関わる技術	(1)マイクロチップの適切な挿入部位について理解する。				
26						
27	4. マイクロチップに関わる技術	〃				
28						
29	まとめ					
30						

科 目			担 当			
動物内科看護学実習Ⅱ			吉川文香(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実習	必修	60	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬や猫の日常敵な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。</li> <li>・基礎で習得した知識を実践とし、診療現場に必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身につける。</li> <li>・また、手順や要領を考えた行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。診療補助、輸液管理、シリンジの扱い、衛生管理、入院管理、調剤、グルーミングについて学ぶ。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>						
授業計画	毎週木曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1	4. マイクロチップに関わる技術	(2)マイクロチップ装着手順を習得している。				
2						
3	5. 生体検査	(1)心電図検査を実施し、結果を記録できる。				
4						
5	5. 生体検査	"				
6						
7	5. 生体検査	(2)X線撮影のための基本的な保定ができる。				
8						
9	5. 生体検査	(3)放射線防護のための装備を正しく扱える。				
10						
11	5. 生体検査	"				
12						
13	5. 生体検査	(4)超音波検査のための基本的な保定ができる。				
14						
15	5. 生体検査	(5)神経学的検査の所見を記録できる。				
16						
17	5. 生体検査	(6)眼科検査 (シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など) の補助ができる。				
18						
19	5. 生体検査	"				
20						
21	5. 生体検査	(7)皮膚検査 (搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など) の補助ができる。				
22						
23	5. 生体検査	(8)外耳道検査の補助ができる。				
24						
25	5. 生体検査	"				
26						
27	まとめ					
28						
29	まとめ					
30						



科 目				担 当		
動物外科看護学実習 I				徳田竜之介 (獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義・実習	必修	22.5	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身につける。手術関連業務、術前、術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリングなどの詳細について理解する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術補助、救急救命等動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。手術における動物看護師の役割を理解し、周術期に果たす役割を理解できるようにする。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日 最終週以外	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	手術補助、器具機材の準備①	外科実習の流れ、手術器具				
2	〃 ②③	縫合材料(針と糸)、ドレープ類・ガウンの意義				
3	〃 ④⑤	電気メス、器具の滅菌管理				
4	避妊、去勢手術、麻酔前評価、まとめ	卵巣・子宮全摘出術、去勢手術の定義、術前検査の意義、まとめ				
5	術前準備、術者の準備①②	手指の消毒法、ガウン・グローブの装着法				
6	動物の準備①②	術野の準備、ドレープのかけ方				
7	血管確保、気道確保	血管確保の準備・手順、気道確保の準備手順				
8	輸液管理、麻酔とは、麻酔薬の作用、麻酔前投薬①	輸液の準備の管理、麻酔の種類、麻酔薬の作用・代謝・排泄、麻酔前投薬の意義				
9	〃 ②	〃				
10	鎮痛薬、麻酔導入、吸入麻酔、酸素化①	鎮痛薬の意義、麻酔導入方法の理解、吸入麻酔薬の意義、麻酔導入前の酸素化の意義				
11	〃 ②	〃				

科 目				担 当		
動物外科看護学実習Ⅱ				徳田竜之介（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	22.5	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身につける。手術関連業務、術前、術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリングなどの詳細について理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術補助、救急救命等動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。手術における動物看護師の役割を理解し、周術期に果たす役割を理解できるようにする。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週金曜日 最終週以外	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	麻酔器の構造と管理、モニター機器の準備と管理①②	麻酔器の仕組みの理解、ECG モニターの仕組みの理解、血圧モニターの仕組みを理解				
2	” ③④	”				
3	麻酔モニター①、麻酔前評価、麻酔維持	気道のモニター、換気のモニター、術前検査の意義、モニタリングの目的				
4	麻酔モニター②、麻酔前評価、麻酔維持	”				
5	動物のモニター①、麻酔のモニター①	五感を使ったモニター方法①②、換気のモニター、酸素化のモニター				
6	動物のモニター②、麻酔のモニター②	”				
7	血液循環、血液循環のモニター①②	血液循環とは、心電図モニター、血圧のモニター				
8	血液循環、血液循環のモニター③④	”				
9	その他のモニター①②、まとめ、実技試験対策、実技試験	体温、尿量のモニター、総まとめ、実技試験				
10	まとめ	総合実習				
11	まとめ	総合実習				

科 目				担 当		
動物愛護・適正飼養実習 I (動物飼育実習)				井上竜一(愛玩動物看護師) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー) 後藤翔太(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1 年	全学科共通	前期	講義・実習	必修	30	1
授業目標	・ 検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他(細胞)の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原則、心電図、内視鏡、CT、MRIの基本原則について学ぶ。					
授業概要	・ 動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。 ・ 主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
			50 点	25 点	25 点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・ 動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学II (ファームプレス) ・ 動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学 (ファームプレス)					
参考書						
授業計画	毎週木金曜日	1 限目	9:00~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物の基本的な取扱い	(1)動物種に応じた安全なハンドリングができる。				
2	1. 動物の基本的な取扱い	"				
3	1. 動物の基本的な取扱い	"				
4	1. 動物の基本的な取扱い	(2)動物を安全に散歩・運動させることができる。				
5	1. 動物の基本的な取扱い	"				
6	1. 動物の基本的な取扱い	"				
7	1. 動物の基本的な取扱い	(3)犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具(首輪、胴輪、リード、おもちゃなど)を選択することができる。				
8	1. 動物の基本的な取扱い	"				
9	1. 動物の基本的な取扱い	"				
10	1. 動物の基本的な取扱い	(4)基本的なグルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)を実施できる。				
11	1. 動物の基本的な取扱い	"				
12	1. 動物の基本的な取扱い	"				
13	1. 動物の基本的な取扱い	(5)動物の飼養環境を適切に整備できる。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物愛護・適正飼養実習Ⅱ（動物飼育実習）				井上竜一(愛玩動物看護師) 橋本沙耶(PSG認定トリマー) 後藤翔太(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実習	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原理、心電図、内視鏡、CT、MRIの基本原理について学ぶ。					
<b>授業概要</b>	・動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。 ・主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
			50点	25	25	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス） ・動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学（ファームプレス）					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週木金曜日	1限目	9：00～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 動物愛護管理行政	(1)動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む）。				
2	3. 動物愛護管理行政	〃				
3	3. 動物愛護管理行政	〃				
4	3. 動物愛護管理行政	(2)動物取扱業へ指導すべき内容について理解する。				
5	3. 動物愛護管理行政	〃				
6	3. 動物愛護管理行政	(3)動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる。				
7	3. 動物愛護管理行政	〃				
8	3. 動物愛護管理行政	〃				
9	まとめ	実習				
10	まとめ	実習				
11	まとめ	実習				
12	まとめ	実習				
13	まとめ	実習				
14	まとめ	実習				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物理学療法 I</b>				井手浩信（理学療法士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義・実習	必修	7.5	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物医療の現場で普及が進む、動物理学療法に関する基礎知識の習得、さらにその知識を介護への活用を目指していく。また飼い主の方とのコミュニケーションがとれ、理学療法の簡単な助言ができるようになることを目標とする。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーションにおける理学療法の位置づけ</li> <li>理学療法の基礎、動物理学療法、運動療法、水治療法、物理療法、シニア期のケア</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎月最終週金曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	動物のリハビリテーションに必要な知識	リハビリの意味やリハビリ中での理学療法の位置づけを理解する。動物理学療法を具体的に理解する。				
2	動物のリハビリテーションに必要な運動器の形態と機能	犬の骨格を理解し関節構造を知り、関節の働きを理解する。筋肉の働きを理解する。神経の働きを理解する。				
3	病態の評価と身体計測	関節や筋肉の簡単な身体計測を理解する。異常歩行を理解する。肥満の評価、指導方法を理解する。				
4	徒手療法①	(1) 理学療法の治療効果と注意点を理解する。 マッサージの手技を理解する。				

科 目				担 当		
<b>動物理学療法Ⅱ</b>				井手浩信（理学療法士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実習	必修	7.5	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物医療の現場で普及が進む、動物理学療法に関する基礎知識の習得、さらにその知識を介護への活用を目指していく。また飼い主の方とのコミュニケーションがとれ、理学療法の簡単な助言ができるようになることを目標とする。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーションにおける理学療法の位置づけ</li> <li>理学療法の基礎、動物理学療法、運動療法、水治療法、物理療法、シニア期のケア</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材 参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小動物のリハビリテーション入門(エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎月最終金曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	徒手療法②	(1) 関節可動域運動を理解する。 (2) ストレッチ運動を理解する。				
2	運動療法①	(1) 陸上での運動療法を理解する。 (2) 水中での運動療法を理解する。				
3	まとめコミュニケーションのコツ	(1) 動物理学療法の実際を理解する。 (2) 飼い主の方へのアドバイス方法を理解する。				
4	まとめ					

科 目			担 当			
訓練学 I			中嶋友美(犬訓練士)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	通年	講義・実技	必修	30※	1※
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献、犬の本能・行動、習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
		100点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※本科目は、前期および後期それぞれでテストを行い、成績評価は年1回となります。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	・トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	トレーニングの時期	A ボールなどで集中力をつける				
	〃	B 〃				
2	「停座」	A リードの持ち方・カラーの位置				
	〃	B 〃				
3	リーダーウォーク	A 効果的なほめ方、指示をするタイミング				
	〃	B 〃				
4	脚側行進	A 常歩・緩歩・速歩				
	〃	B 〃				
5	脚側行進	A トレーニングを楽しむ				
	〃	B 〃				
6	「伏臥」	A 人が主導的行動をとる				
	〃	B 〃				
7	テスト	A 理解度確認				
	〃	B 〃				
8	「立止」	A 犬の本能・習性を理解する				
	〃	B 〃				
9	「停座」及び「招呼」	A マテ・コイ・アトエがすべて含まれた科目				
	〃	B 〃				
10	「伏臥」及び「招呼」	A フセ・コイ・アトエ訓練の進み具合が現れる科目				
	〃	B 〃				
11	「持来」	A ダンベルを使い犬に持つことを教える				
	〃	B 〃				
12	「休止」	A 長時間犬を待たせる				
	〃	B 〃				
13	訓練競技会の科目	A 各科目の説明				
	〃	B 〃				
14	テスト	A 理解度確認				
	〃	B 〃				
15	テスト	A 理解度確認				
	〃	B 〃				

※学年を2つのグループ(飼育班)に分け、隔週交代で実施する。

※通年実施の30時間で、1単位の認定となる。

科 目				担 当		
動物歯科学				西川文（歯科医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	・生命維持の始まりである「口腔機能」と全身機能の相互関係を理解する。歯科疾患の原因や発生機序を知った上で、治療法・診療補助法・予防法・ケアの方法について学習する。					
授業概要	・動物それぞれの特性を理解し、健康を維持するための看護歯科学について学ぶ。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	80点		10点	5点	5点	
<p>※本科目の試験および、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> </ul>					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物看護師の教科書第3巻 基礎動物看護学（緑書房）</li> <li>愛玩動物看護師の教科書第5巻 臨床動物看護学（緑書房）</li> <li>動物看護の為の小動物歯科学（ファームプレス）</li> <li>犬と猫の歯科 ベーシック編（学窓社）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週木曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	I 口腔解剖・生理学 ①口腔器官の役割	口腔器官の解剖・機能・役割を学ぶ。				
2	②動物の歯科疾患	解剖学的特性と疾病の種類を学ぶ。				
3	③全身との関連	口腔と全身の相互関係を学ぶ。				
4	II 口腔疾患各論 ①齶蝕と歯周病	齶蝕・歯周病の種類・分類・原因について学ぶ。				
5	②齶蝕と歯周病の治療	齶蝕・歯周病の治療法について学ぶ。				
6	③動物の齶蝕と歯周病	動物の齶蝕・歯周病の特性・治療法について学ぶ。				
7	④口腔外科疾患	疾病の種類・原因・予後について学ぶ。				
8	⑤口腔外科治療	外傷・腫瘍・先天異常などの治療法を学ぶ。				
9	⑥動物の口腔外科治療	外傷・腫瘍・先天異常などの動物の治療法を学ぶ。				
10	III 口腔疾患の治療 ①口腔内診査・診断	口腔内診査の種類・手順・基準について学ぶ。				
11	②治療法	実際の治療・診療補助・看護について学ぶ。				
12	③動物の治療と看護	動物の治療・診療補助・看護について学ぶ。				
13	④予防歯科	口腔疾患の対策・予防法・ホームケアについて学ぶ。				
14	まとめ					
15	まとめ					



科 目			担 当			
愛玩動物飼養管理学			後藤翔太(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義・演習	必修	15※	1※
<b>授業目標</b>	・法律に基づき、動物の愛護と適正な飼養管理についての知識の普及及び指導を行うとともに必要な愛玩動物飼養管士を目指す者が学ぶ。また愛玩動物飼養管理士の資格取得の支援を行う。					
<b>授業概要</b>	・愛玩動物飼養管理士の資格取得に向けた過去問題集を中心に学ぶ。					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・愛玩動物飼養管理士教本2級 1巻2巻					
<b>参考書</b>	・講師配付資料					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	愛玩動物飼養管理士2級取得対策	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
2	愛玩動物飼養管理士2級取得対策	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
3	〃	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
4	〃	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
5	〃	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
6	〃	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
7	まとめ	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			
7.5	まとめ	A	課題問題を解きながら解説			
		B	〃			

※学年を2つのグループ(飼育班)に分け、隔週交代で実施する。

※半期(15時間)で1単位の認定となる。

ペットアロママッサージ I

科 目				担 当		
ペットアロママッサージ I				前田しのぶ(アロマコーディネーター)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	・運動不足、ストレスを蓄積し動きの悪くなった動物をリラックスさせるマッサージ法について学ぶ。この中には精油を用いるアロマセラピーも含む。					
授業概要	・実際にアロマオイルをブレンドし、モデル犬で効果を体験する。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・アロマオイルセット					
参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週金曜日	4限目	15:00~16:30			
回	テーマ		授業内容			
1	ホリスティックについて		人と動物へのホリスティック、自己紹介			
2	2-1	アロマセラピー	精油の扱い方を知る、体験			
3	クラフト作成		精油3種の学習、バスソルト、ボディソープ			
4	2-2	精油の生い立ち	精油5種			
5	オイルトリートメント		キャリアオイルの数々、ペットに適したオイルの使い方			
6	2-3	ハンドトリートメント	学生同士のトリートメント、ペットへの生かし方			
7	2-4	精油ブレンド	ブレンドファクターの練習、精油5種			
8	2-5	人間の脳と嗅覚	犬にアロマが良い理由、香りのキャチ法			
9	2-6	スキンケア (2)	オイルトリートメント実践、ローション、フェイストリートメント作成			
10	2-7	香りの歴史	歴史を学ぶ、精油5種			
11	2-8	精油の安全性	ハンガリーウォーター、マウスウォッシュ作成			
12	2-9	精油の作成	アロマに役立つ解剖、生理学、ヘアパック作成			
13	2-10	オイルトリートメント (犬)	犬のマッサージ方法、人との比較			
14	2-1~10のおさらい		復習			
15	2-1~10のおさらい		復習			

科 目				担 当		
分子遺伝学入門				田嶋義高		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	通年	講義・実習	必修	30※	1※
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生き物の一生は、遺伝子によって動かされている!」、このことをDNAやタンパク質などといった「分子」の観点から理解する。</li> <li>また、それを基礎として、関連応用分野(獣医学、動物繁殖学等)の理解を深め、動物の専門家となるための資格取得等に必要の遺伝学的知識や考え方を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体の構成単位である細胞と遺伝子の関係を分子(DNA、タンパク質など)のレベルで学ぶ。さらに、動物の一生(誕生、成長、疾病、老化、生殖・遺伝)において、遺伝子がどのような役割を果たしているかを概説する。実際的な応用面として、遺伝子検査技術などについても触れる。</li> <li>毎回、Google フォームを使って小テストを行う。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	70点		20点	10点		
成績評価は年1回、後期試験終了後に行う。						
<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記試験成績は、前期および後期の定期試験の結果で評価する。</li> <li>提出物の未提出があった場合は、筆記試験の成績に関わらず、評価はC(60点)を超えない。</li> </ul>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版(ファームプレス); 1~3巻を毎回持参のこと</li> <li>講師配付資料、視聴覚教材</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物看護師コアカリキュラム準拠教科書(EDUWARD Press)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	1限目	9:10~10:40			
<b>回</b>	<b>テーマ</b>	<b>授業内容</b>				
1	はじめに	授業の計画・進め方、Google フォーム(小テスト)のやり方、学習方法				
2	分子、遺伝子、分子遺伝学とは?	「分子」、「遺伝子」、「分子遺伝学」、「ゲノム」、本講義の到達目標				
3	細胞とDNA(1): 細胞の働きとタンパク質	生体の成り立ち、生体を構成する分子、細胞の構造(細胞内小器官)、遺伝子のトリセツ、細胞の種類と遺伝子・タンパク質の関係				
4	細胞とDNA(2): タンパク質と遺伝子(DNA)	遺伝子のスイッチ、タンパク質の構造と働き、タンパク質の種類、酵素の魔法の力、タンパク質の消化と再合成				
5	細胞とDNA(3): DNAと染色体	DNAと遺伝子・染色体・タンパク質の関係、DNAの構造、DNAとRNAの違い				
6	【実験1】DNAを目で見る!	生物試料の細胞からDNAを抽出して肉眼観察 【提出課題】実験報告書				
7	前期のまとめ	実験報告書の講評、前期のまとめ(前期試験に向けて)				
8	前期の復習、 DNA二重らせんのでき方	前期試験問題の復習、DNA二重らせんの合成過程、DNAペーパークラフト(実習)の準備				
9	【実習】DNAペーパークラフト	1本鎖DNA、2本鎖DNA、二重らせんDNA、塩基と遺伝暗号(グループディスカッション) 【提出課題】実習レポート				
10	遺伝子発現	セントラルドグマ、転写、翻訳、遺伝暗号				
11	細胞分裂と染色体(1): 細胞分裂と成長	体細胞分裂、染色体の現れ方、細胞周期、DNAの複製、動物の一生と染色体				
12	【実験2】 体細胞分裂を顕微鏡で見る!	体細胞分裂過程における染色体の出現と変化(顕微鏡写真撮影) 【提出課題】染色体写真レポート				
13	細胞分裂と染色体(2) 生殖・がん・老化と染色体	相同染色体、常染色体、性染色体、性別を決める遺伝子、遺伝子座、生殖と減数分裂、細胞周期とがん・老化				
14	染色体と遺伝	伴性遺伝(三毛猫の性別)、メンデルの法則				
15	遺伝性疾患、遺伝子検査	突然変異、遺伝と病気、染色体異常、遺伝子検査、PCR				

※学年を2つのグループ(飼育班)に分け、隔週交代で実施する。

※通年実施の30時間で、1単位の認定となる。

科 目				担 当		
<b>海外研修</b>				井上竜一(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・演習	必修	7.5※	1※
<b>授業目標</b>	<p>・海外研修の目的は、諸外国の動物関連施設の見学や研修・交流等とおして、さまざまな文化に直接触れ体感することで、その国の社会的背景や人々の考え方について学び見聞を広め、日本との違いや類似点を知ることと、学生ひとり一人が今後自分自身の取り組むべき課題や将来の進路を見つけること、更にはその実現に向けて一歩前に踏み出すことにある。具体的には、研修先の決定後、研修内容、研修目標を設定し、日本との違い、日本が抱える問題点、今後の展望を考察する。</p>					
<b>授業概要</b>	<p>・</p>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<p>・講師配付資料</p>					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	研究内容の把握	A 研修の目的や集団行動での注意点等を明確にする。				
	研究内容の把握	B //				
2	研究内容の把握	A 研修先を事前に学習し、体験学習を深める。				
	研修内容の把握	B //				
3	研修目標の設定	A 研修先を事前に学習し、体験学習を深める。				
	研修目標の設定	B //				
3.5	まとめ	A 研修先を事前に学習し、体験学習を深める。				
3.5	まとめ	B //				

※学年を2つのグループ(飼育班)に分け、隔週交代で実施する。

※この科目は、[掃除学]と合わせて15時間で、1単位の認定となる。

科 目				担 当		
掃除学				高木弘和		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実技	必修	7※	1※
<b>授業目標</b>	・ 予防医学の見地からも掃除は重要であることを認識し、汚れの種類と洗剤選びから基本動作と道具等まで掃除の基本を学ぶ。					
<b>授業概要</b>	・ 動物関係のみならず様々な場面での掃除の重要性を学ぶ。					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材 参考書</b>	・ 講師配付資料					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1 限目	9 : 10～10 : 40			
回	テーマ	授業内容				
1	教室・更衣室等の掃除方法について	A	ディスカッションと実践			
		B	〃			
2	ラウンジ・実習室・トイレ・廊下の掃除方法について	A	ディスカッションと実践			
		B	〃			
3	トリミングルーム・トレーニングルーム・廊下・トイレの掃除方法について	A	ディスカッションと実践			
		B	〃			
3.5	まとめ	A	ディスカッションと実践			
		B	〃			

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、隔週交代で実施する。

※この科目は、〔海外研修〕と合わせて15時間で、1単位の認定となる。

科 目			担 当			
<b>動物飼育実習 I</b>			井上竜一(愛玩動物看護師) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー) 後藤翔太(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1 年	全学科共通	前期	実習	必修	45※	1.5※
<b>授業目標</b>	・実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリングを、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を順守した飼育及び基本的なトレーニング法を理解する。					
<b>授業概要</b>	・動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め動物の観察力や看護および問題解決力を養う。					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
				50 点	50 点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60 点未満は再試とする。再試においては80 点以上を合格とし、評価はC となる。						
<b>教 材 参考書</b>	・講師配付資料					
<b>授業計画</b>	月曜日～水曜日		1 限目 9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1-3	飼育とは 犬、猫およびエキゾチックについて	種と特徴、飼育用具				
4-6	犬、猫およびエキゾチックについて	衛生管理、食事管理、ハンドリング				
7-9	飼育実習	環境整備、衛生管理、栄養管理、ハンドリングの実践				
10-12	飼育実習	〃				
13-15	飼育実習	〃				
16-18	飼育実習	〃				
19-21	飼育実習	〃				
22-24	飼育実習	〃				
25-27	飼育実習	〃				
28-30	飼育実習	〃				
31-33	飼育実習	〃				
34,35	飼育実習	〃				

※通年（90 時間）を前後期 2 分割で表示。また、放課後・土・日・休日の飼育当番の出席も評価対象となる。

## 飼育実習Ⅱ

科 目			担 当			
動物飼育実習Ⅱ			井上竜一(愛玩動物看護師)			
			橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
			後藤翔太(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	実習	必修	45※	1.5※
授業目標	・実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリングを、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を順守した飼育及び基本的なトレーニング法を理解する。					
授業概要	・動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め動物の観察力や看護および問題解決力を養う。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
				50点	50点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・講師配付資料					
参考書						
授業計画	月曜日～水曜日	1限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1-3	飼育実習	環境整備、衛生管理、栄養管理、ハンドリングの実践				
4-6	飼育実習	〃				
7-9	飼育実習	〃				
10-12	飼育実習	〃				
13-15	飼育実習	〃				
16-18	飼育実習	〃				
19-21	飼育実習	〃				
22-24	飼育実習	〃				
25-27	飼育実習	〃				
28-30	飼育実習	〃				
31-33	飼育実習	〃				
34,35	飼育実習	〃				

※通年(90時間)を前後期2分割で表示。また、放課後・土・日・休日・の飼育当番の出席も評価対象となる。

科 目			担 当			
英会話			兵藤陽子			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	15※	1※
授業目標	・海外研修において、そこで出会う人々との意思疎通を図ることができ、コミュニケーション力をアップさせるための実用英会話を身につける。					
授業概要	・海外研修準備のために専門的な語学習得も含む。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	60点	-	10点	20点	10点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・新ペットビジネス英会話 (エデュワードプレス)					
参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週木曜日	1限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	自己紹介&相手のことを知ろう	A	自己紹介を通して、自分の事を相手に伝え、その相手の好きな事や得意な事も聞き取る。			
		B	〃			
2	ペットや飼育動物について話そう	A	ペットや飼育動物についての特徴を相手に伝える。			
		B	〃			
3	自分の体調を伝えよう	A	自分の体調や症状を相手に話し、辛さを伝えられるようにする。			
		B	〃			
4	探している物、欲しい物を伝えよう	A	ペットグッズや自分の欲しい物を相手に伝える。			
		B	〃			
5	お土産の準備をしよう	A	ホストファミリーへのお土産はどんなものが良いか考え、使い方を伝える。			
		B	〃			
6	食べたい物をオーダーしよう	A	レストランやカフェに入った時に、スムーズにオーダーできるようになる。			
		B	〃			
7	その他の表現を学ぼう&復習	A	その他、海外研修中に出くわすであろう場面を想定し、必要表現を学ぶ。これまでの復習			
		B	〃			
7.5	その他の表現を学ぼう&復習	A	その他、海外研修中に出くわすであろう場面を想定し、必要表現を学ぶ。これまでの復習			
		B	〃			

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、隔週交代で実施する。

※半期（15時間）で1単位の認定となる。



科 目		担 当				
パソコン		小山房子				
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義・実技	必修	15※	1※
授業目標	・各種業務で使用頻度の高いソフトウェア（ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト）の基本操作を習得する。					
授業概要	・ソフトウェアの基本的な操作法を学び、Word、Excel 検定試験のための技術習得を目指す。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
		90点			10点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教材 参考書	・（オリジナル教材）PowerPoint 基礎、Word 基礎、Excel					
授業計画	毎週木曜日	1 限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	プレゼン（PPT）1	A	文字入力、スライドの追加、画像・表・グラフの挿入			
		B	〃			
2	プレゼン（PPT）2	A	デザインの設定、アニメーション効果、スライド切り替え効果、プレゼンテーションの実行			
		B	〃			
3	ワープロ（Word）1	A	ページ設定、ビジネス文書作成			
		B	〃			
4	ワープロ（Word）2	A	ビジネス文書の仕上げ、印刷設定			
		B	〃			
5	表計算（Excel）1	A	データ入力の基礎、書式設定、計算式の入力			
		B	〃			
6	表計算（Excel）2	A	罫線、関数基礎、相対参照・絶対参照			
		B	〃			
7	表計算（Excel）3	A	グラフの作成・編線			
		B	〃			
7.5	表計算（Excel）3	A	グラフの作成・編線			
		B	〃			

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、隔週交代で実施する。

※半期（15時間）で1単位の認定となる。

科 目				担 当		
ビジネスマナー I				福田由吏		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義・実技	必修	15※	1※
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマナーの講義を通じて、ビジネスの場で必要な基礎知識と技能を身につけ、実践できるようにする。また、インターンシップや就職面接を想定したロールプレイングを行い、社会人へ向けた準備を整える。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物業界のみならず、様々な場面におけるビジネスマナーを修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	60点			20点	20点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内コミュニケーション【基礎知識編】(エデュワードプレス)</li> <li>・コミュニケーション・マナー&amp;キャリア・ガイダンス第3版(エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	マナーとは?身だしなみの基本	A	なぜマナーを学ぶのか?社会人の心得、基本スタイル、整理整頓、挨拶、豊かな表情の作り方			
		B	〃			
2	名刺を作ろう	A	名刺制作、名刺交換、自己紹介			
		B	〃			
3	就職活動の進め方①	A	インターンシップ前の心構え、自己分析、自己紹介、志望動機			
		B	〃			
4	就職活動の進め方②	A	履歴書の書き方、アポイントの取り方、フィールドワーク			
		B	〃			
5	ビジネスの場における立ち居振る舞い①	A	聞く力、話す力、マジックフレーズ			
		B	〃			
6	ビジネスの場における立ち居振る舞い②	A	第一印象、職場での言葉遣い、敬語の使い方			
		B	〃			
7	就職活動の進め方③	A	面接、想定質問例			
		B	〃			
7.5	就職活動の進め方③	A	面接、想定質問例			
		B	〃			

※学年を2つのグループ(飼育班)に分け、隔週交代で実施する。

※半期(15時間)で1単位の認定となる。

ライセンス対策 I

科 目				担 当		
ライセンス対策 I				西島信彦(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1 年	全学科共通	後期	講義	必修	15※	1※
<b>授業目標</b>	・動物愛護社会化検定基礎級、家庭犬インストラクター、コミュニケーション検定、日本ペットビジネススクール協会等の資格試験対策。					
<b>授業概要</b>						
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材 参考書</b>	・各検定の過去問					
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1 限目	9 : 10～10 : 40			
回	テーマ	授業内容				
1	動物愛護社会化検定基礎級	A	過去問題、解答、解説			
		B	〃			
2	〃	A	〃			
		B	〃			
3	家庭犬インストラクター	A	〃			
		B	〃			
4	〃	A	〃			
		B	〃			
5	コミュニケーション検定	A	〃			
		B	〃			
6	〃	A	〃			
		B	〃			
7	ドッグ検定	A	〃			
		B	〃			
7.5	まとめ	A	〃			
		B	〃			

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、隔週交代で実施する。

※半期（15時間）で1単位の認定となる。

トリミング実習 I

科 目			担 当			
トリミング実習 I			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	実習	必修	60	2
授業目標	・シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。					
授業概要	・トリミングの手技とともに、取扱う動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	・DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)					
授業計画	毎週水曜日	1 限目 9:10～10:40	2 限目 10:50～12:20	3 限目 13:20～14:50	4 限目 15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1	グルーミング備品、シャンプー・	講義 (グルーミング備品の名称使用法)				
2	リンスの種類、シザー等について					
3	グルーミングの流れ、注意点、バ	グルーミングのデモンストレーション (ダックス)				
4	リカンについて					
5	グルーミング概論、イヌ種概論・	講義 (グルーミングの目的、効果、専門用語など)				
6	種類、ネコ種概論・種類、グルー	(イヌの種類・特徴、ネコの種類・特徴)				
7	モデル犬家庭犬によるグルーミン	実習				
8	グ実習					
9	”	”				
10	”	”				
11	”	”				
12	”	”				
13	”	”				
14	”	”				
15	”	”				
16	”	”				
17	”	”				
18	”	”				
19	”	”				
20	”	”				
21	”	”				
22	”	”				
23	”	”				
24	”	”				
25	まとめ試験	”				
26	”	”				
27	”	”				
28	”	”				
29	”	”				
30	”	”				

※学年を2つのグループ (飼育班) に分け、午前・午後入れ替わりで実施する。

トリミング実習Ⅱ

科 目			担 当			
トリミング実習Ⅱ			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	実習	必修	60	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。</li> <li>・トリミングの手技とともに、取扱う動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。</li> </ul>					
授業概要						
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)</li> </ul>					
授業計画	毎週水曜日	1 限目 9:10～10:40	2 限目 10:50～12:20	3 限目 13:20～14:50	4 限目 15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
2	〃	〃				
3	〃	〃				
4	〃	〃				
5	〃	〃				
6	〃	〃				
7	〃	〃				
8	〃	〃				
9	〃	〃				
10	〃	〃				
11	〃	〃				
12	〃	〃				
13	〃	〃				
14	〃	〃				
15	〃	〃				
16	〃	〃				
17	〃	〃				
18	〃	〃				
19	〃	〃				
20	〃	〃				
21	〃	〃				
22	〃	〃				
23	〃	〃				
24	〃	〃				
25	まとめ試験	〃				
26	〃	〃				
27	〃	〃				
28	〃	〃				
29	〃	〃				
30	〃	〃				

※学年を2つのグループ（飼育班）に分け、午前・午後入れ替わりで実施する。



# 二年次科目

—動物看護学科—





科 目				担 当		
<b>動物形態機能学Ⅲ</b>				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	6. 泌尿器と体液調節	(1)腎臓及びネフロン構造と機能について理解する。				
2	6. 泌尿器と体液調節	(2)クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する。				
3	6. 泌尿器と体液調節	"				
4	6. 泌尿器と体液調節	(3)尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する。				
5	6. 泌尿器と体液調節	"				
6	6. 泌尿器と体液調節	(4)体液の分布と区分、調節機構について理解する。				
7	6. 泌尿器と体液調節	(5)電解質バランスについて理解する。				
8	7. 脳と神経	(6)酸・塩基平衡について理解する。				
9	7. 脳と神経	(1)ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する。				
10	7. 脳と神経	(2)脳の構造と機能について理解する。				
11	7. 脳と神経	(3)脊髄の構造と機能について理解する。				
12	7. 脳と神経	(4)体性神経の構成と機能について理解する。				
13	7. 脳と神経	(5)自律神経の構成と機能について理解する。				
14	まとめ					
14	まとめ					

科 目				担 当		
動物形態機能学Ⅳ				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	8. 運動器	(1)骨格の構成について理解する。				
2	8. 運動器	(2)骨の形状と構造について理解する。				
3	8. 運動器	(3)関節の構造と働きについて理解する。				
4	8. 運動器	(4)骨格筋の構造と収縮機構について理解する。				
5	8. 運動器	(5)主な骨格筋の名称と機能について理解する。				
6	9. 血液と造血器	(1)血球成分と血漿成分について理解する。				
7	9. 血液と造血器	(2)赤血球の構造と機能について理解する。				
8	9. 血液と造血器	(3)白血球の構造と機能について理解する。				
9	9. 血液と造血器	(4)血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する。				
10	10. 皮膚と感覚器	(1)皮膚の構と機能について理解する。				
11	10. 皮膚と感覚器	(2)皮膚の付属器官について理解する。				
12	10. 皮膚と感覚器	(3)体性感覚（皮膚感覚）について理解する。				
13	10. 皮膚と感覚器	(4)特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目		担 当				
動物形態機能学V		大杉剛生（獣医師）				
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>（免疫学）</li> <li>炎症と免疫の機序とアレルギーや自己免疫性疾患についても学ぶ。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学 I（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	炎症	炎症の五大主徴、関連する細胞				
2	免疫とは；体を守る仕組み	止血、皮膚、身体を守る				
3	免疫器官と免疫細胞	白血球の種類、体の免疫器官				
4	自然免疫系による防御	自然免疫系とは				
5	獲得免疫系（体液性免疫）	体液性免疫の仕組み				
6	抗体の種類と構造	免疫グロブリン				
7	獲得免疫系（細胞性免疫）	細胞性免疫の仕組み				
8	サイトカインについて	サイトカインの役割、インターロイキン				
9	免疫の応用と受動免疫	ワクチン感染症の制御、新生子の免疫・抗体の移行				
10	アレルギーの仕組み	免疫応答の異常				
11	抗体とアレルギーの遺伝	免疫に関する遺伝子について				
12	自己免疫疾患と免疫不全					
13	移植と拒絶反応					
14	免疫によるがん治療およびまとめ	免疫に関する問題を中心として				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物栄養学Ⅱ				津田圭子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	・ 5大栄養素を理解する。犬猫の必要栄養素の違いを理解する。ペットフードの表記を理解する。ライフステージの違いを理解する。BCS評価及びカロリー計算ができるようにする。					
授業概要	・ 基礎栄養素および主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的な知識と特別療法食の特性など、個体に合った適切な食事管理についての知識を身につける。またペットフードの市場について考察する。					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	90点				10点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・ 動物栄養学（インターズー）</li> <li>・ √ルート計算の出来る電卓を各自用意</li> <li>・ 講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週月曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	復習					
2	3. フードと栄養指導	(5)肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する。				
3	3. フードと栄養指導	〃				
4	4. 疾患と栄養	(1)さまざまな疾患時の食事療法について理解する。				
5	4. 疾患と栄養	〃				
6	4. 疾患と栄養	(2)療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる。				
7	4. 疾患と栄養	〃				
8	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(1)強制給餌の方法と注意点について理解する。				
9	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(2)経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する。				
10	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	〃				
11	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(3)静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する。				
12	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	〃				
13	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(4)チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
比較動物学 I				大杉剛生 (獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学課共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・飼養動物（動物産業動物、実験動物）、飼育管理法および畜産業等社会との関わりと野生動物について理解を深める。					
<b>授業概要</b>	・飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。家畜化の歴史人との関わり、牛、馬、豚、山羊、羊、鶏等の品種と飼養管理法について学ぶ。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学II（ファームプレス） ・講師配付資料					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3限目	13：20～14：50			
回	テーマ	授業内容				
1	実験動物①	(1)動物実験の目的、意義について理解する。				
2	実験動物②	(2)代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する。				
3	実験動物③	(3)遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する。				
4	実験動物④	(4)疾患モデル動物について理解する。				
5	野生動物①	(1)野生動物の分類と生物多様性について理解する。				
6	野生動物②	(2)野生動物の分類と生物多様性について理解する。				
7	野生動物③	(3)鳥獣害の現状と保全の意義について理解する。				
8	野生動物④	(4)絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する。				
9	野生動物⑤	(5)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。				
10	野生動物⑥	(6)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。				
11	展示動物①	(1)展示動物の意義と動物園等の役割について理解する。				
12	展示動物②	(2)動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する。				
13	展示動物③	(3)動物園等の施設管理について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目			担 当			
動物看護関連法規			大杉剛生（獣医師）			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義	必修	15	1
授業目標	・動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	70点			15点	15点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス） ・講師配付資料					
参考書						
授業計画	毎週水曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 法学総論	(1)法の体系について理解する。 (3) 獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する。				
2	2. 愛玩動物看護師法	(1)愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する（免許、試験、業務、罰則を含む）。				
3	3. 獣医療関連行政法規	(1)獣医師法の概要について理解する。				
4	3. 獣医療関連行政法規	(2)獣医療法の概要について理解する。				
5	4. 公衆衛生行政法規	(1)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する。 (3) 狂犬病予防法の概要について理解する。				
6	5. 薬事行政法規	(1)医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する。				
7	5. 薬事行政法規	(2)麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する。 (4) 毒物及び劇物取締法の概要について理解する。				
	復習とまとめ					

科 目				担 当		
動物愛護・適正飼養関連法規				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義	必修	15	1
授業目標	・動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	70点			15点	15点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス） ・講師配付資料					
参考書						
授業計画	毎週水曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 愛護・適正飼養の基本となる概念	(1)愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する。				
2	2. 愛護・適正飼養関連行政法規	(1)動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する。 (3) 愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する。				
3	3.社会福祉行政・環境衛生法規	(1) 身体障害者補助犬法について概要を理解する。 (2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する。 (3) 化製場等に関する法律の概要について理解する。				
4	4. 野生動物等に関する法律及び条約	(1)生物多様性の概要について理解する。 (2)特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する。				
5	4. 野生動物等に関する法律及び条約	(3)絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する。 (4)絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する。				
6	4. 野生動物等に関する法律及び条約	(5)鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する。 (6)特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する。				
7	4. 野生動物等に関する法律及び条約	(7)自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する。 (8)文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する。				
8	まとめ					

科 目				担 当		
動物病理学				古田祥史（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科、動物管理学科管理コース	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気とはどのような現象か、どのような原因で病気が成立するか、また、臨床病理学的にはどのような種類の病気があるかを学ぶ。また、病気に伴う生体内（細胞・組織）の基本的変化と名称の定義を学ぶ。更に、代謝障害、炎症、腫瘍、遺伝病、免疫異常疾患等とはどのような病気があるか、それらの病気による病理学的、臨床的变化について学ぶ。なお、高齢化に伴う生体の生理・機能的変化および多発しやすい疾患についても学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病理学の概要、正常な細胞・組織とその病的変化、新陳代謝障害、炎症、腫瘍、先天性異常、免疫疾患等、様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物病理学の基礎	(1)病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する。 (2)病理組織標本の作製法について理解する。				
2	1. 動物病理学の基礎	(3)病理組織学的検査の実施手順について理解する。				
3	2. 細胞や組織に生じる変化	(1)変性と物質沈着について理解する。 (2)壊死とアポトーシスについて理解する。				
4	2. 細胞や組織に生じる変化	(3)細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する。 (4)過形成と肥大について理解する。 (5)低形成と萎縮について理解する。				
5	3. 循環障害	(1)充血とうっ血について理解する。 (2)出血の原因と病態について理解する。				
6	3. 循環障害	(3)血栓の成因について理解する。 (4)虚血と梗塞について理解する。				
7	3. 循環障害	(5)浮腫と水腫について理解する。 (6)ショックの原因と分類、病態について理解する。 (7)播種性血管内凝固（DIC）の病態について理解する。				
8	4. 炎症	(1)炎症の定義と5大主徴について理解する。				
9	4. 炎症	(2)炎症の分類と原因と特徴について理解する。 (3)炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する。				
10	4. 炎症	(4)炎症の経過と治癒について理解する。				
11	5. 腫瘍	(1)腫瘍の定義と分類について理解する。 (2)腫瘍の原因と発生機序について理解する。				
12	5. 腫瘍	(3)腫瘍と宿主の関係について理解する。 (4)腫瘍の転移と進行について理解する。				
13	6. 先天異常	(1)遺伝子・染色体異常について理解する。 (2)発生異常と奇形について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					



科 目			担 当			
動物薬理学 I			仁木隆博（農学博士）			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬の作用機序とその有害作用ならびに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性について学び、薬剤を正しく取り揃えられることを目標とする。さらに、薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用機序や中毒を理解し、獣医療現場で使用される薬剤の特性について習得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。薬理の作用機序と神経系、消化器系、呼吸器系、循環器系に作用する薬剤動態について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物看護師の教科書第3巻 基礎動物看護学（緑書房）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週木曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物薬理学の基礎	(1)獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する。 (2)薬理作用とその発現機構について理解する。				
2	1. 動物薬理学の基礎	(3)薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）と半減期、耐性について理解する。 (4)薬物間相互作用について理解する。 (5)副作用と中毒について理解する。				
3	2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い	(1)獣医師による投薬量計算について理解する。 (2)各種投薬法（投与経路）を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる。 (3)薬物の適切な管理方法について理解する。				
4	3. 神経系に作用する薬物	(1)全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する。 (2)鎮痛薬について理解する。				
5	3. 神経系に作用する薬物	(3)運動神経系に作用する薬について理解する。 (4)鎮静薬と抗けいれん薬について理解する。 (5)問題行動の治療に用いられる薬について理解する。				
6	4. 呼吸器系に作用する薬物	(1)呼吸興奮薬について理解する。 (2)鎮咳薬について理解する。 (3)気管支拡張薬について理解する。				
7	5. 循環器・泌尿器に作用する薬物	(1)血管拡張薬（降圧薬）について理解する。 (2)心不全治療薬（強心薬）について理解する。				
8	5. 循環器・泌尿器に作用する薬物	(3)抗不整脈薬について理解する。 (4)利尿薬について理解する。				
9	6. 消化器に作用する薬物	(1)制吐薬について理解する。 (2)制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する。				
10	6. 消化器に作用する薬物	(3)消化管運動調節薬について理解する。				
11	6. 消化器に作用する薬物	(4)止瀉薬について理解する。 (5)瀉下薬について理解する。				
12	6. 消化器に作用する薬物	(6)肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する。				
13	6. 消化器に作用する薬物	(7)膵酵素製剤について理解する。				
14	中間まとめ					
15	中間まとめ					

科 目				担 当		
動物薬理学Ⅱ				仁木隆博（農学博士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬の作用機序とその有害作用ならびに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性について学び、薬剤を正しく取り揃えられることを目標とする。さらに、薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用機序や中毒を理解し、獣医療現場で使用される薬剤の特性について習得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。薬理の作用機序と神経系、消化器系、呼吸器系、循環器系に作用する薬剤動態について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物看護師の教科書第3巻 基礎動物看護学（緑書房）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	(1)代表的なオータコイドについて理解する。				
2	7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	(2)糖尿病治療薬について理解する。				
3	7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	(3)甲状腺ホルモン製剤について理解する。				
4	7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	(4)ステロイドホルモン製剤について理解する。				
5	8. 血液・免疫系に作用する薬物	(1)抗貧血薬について理解する。				
6	8. 血液・免疫系に作用する薬物	(2)血液凝固抑制薬について理解する。				
7	8. 血液・免疫系に作用する薬物	(3)血液凝固促進薬（止血薬）について理解する。				
8	8. 血液・免疫系に作用する薬物	(4)非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs）について理解する。				
9	8. 血液・免疫系に作用する薬物	(5)免疫抑制薬について理解する。				
10	9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物	(1)抗菌薬について理解する（作用機序による分類、抗菌スペクトルなど）。				
11	9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物	(2)抗真菌薬について理解する。 (3)駆虫薬について理解する。				
12	9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物	(4)殺虫薬について理解する。 (5)消毒薬について理解する。				
13	10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物	(1)抗悪性腫瘍薬について理解する（作用機序による分類）。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物感染症学Ⅱ</b>				仁木隆博（農学博士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科、動物管理学科管理コース	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染、感染症、発症などの定義、感染症の成立条件、感染症の病原因子である細菌・真菌・ウイルスおよび原虫などに関する生物学的、物理化学的性状を学ぶ。更に、犬、猫等が罹患する主要な感染症とその感染経路、感染後の経過、臨床症状、診断、予防・治療方法、微生物学的検査方法、微生物材料の取り扱い方法等を学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1 限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	4. 動物感染症	(1)病原体の感染経路と伝播様式について理解する。				
2	4. 動物感染症	(2)感染症の成立要因について理解する。				
3	4. 動物感染症	(3)主な感染症（動物臨床看護学各論の3. 代表的な疾患を参照）の症状、治療法、予防法について理解する。				
4	4. 動物感染症	"				
5	4. 動物感染症	"				
6	4. 動物感染症	(4)消毒、滅菌法について理解する。				
7	4. 動物感染症	"				
8	4. 動物感染症	(5)院内感染の予防対策について理解する。				
9	5. 免疫学の基礎と応用	(1)免疫担当細胞とその役割について理解する。				
10	5. 免疫学の基礎と応用	(2)自然免疫と獲得免疫について理解する。				
11	5. 免疫学の基礎と応用	(3)液性免疫と細胞性免疫について理解する。				
12	5. 免疫学の基礎と応用	(4)アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患について理解する。				
13	5. 免疫学の基礎と応用	(5)ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
公衆衛生学 I				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学課共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全などに活かせる知識を身につける。</li> <li>おもな人獣共通感染症、動物由来の人獣感染症の種類と病害発生の機序を理解する。また、滅菌、消毒の違いと、それぞれの処置方法を学ぶ。さらに国内外を問わず、動物輸送時や受入れの際に必要な知識を身につける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	公衆衛生学概論①	動物看護と公衆衛生の関係性を考え、公衆衛生の定義と目的及び活動を理解する。				
2	〃 ②	〃				
3	人獣共通感染症① 人獣共通感染症とは 伝搬様式、予防対策	人獣共通感染症の定義と現状を知る。新興と再興感染症の発生要因を知る。人獣共通感染症動物から人への感染様式と予防対策について学ぶ。				
4	〃 ②	〃				
5	〃 ③ 動物由来の主な人獣共通感染症 ウイルスによる人獣共通感染症	イヌ、ネコ、サル類、げっ歯類の人獣共通感染症にはどのようなものがあるかを学ぶ。 ウイルスの概要と性状について学ぶ。				
6	〃 ④	〃				
7	〃 ⑤ ウイルスによる人獣共通感染症	ウイルスによる主な人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
8	〃 ⑥	〃				
9	〃 ⑦	〃				
10	〃 ⑧	ウイルスとプリオンによる主な人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
11	〃 ⑨ 細菌による主な人獣共通感染症	細菌の概要と性状、症状、治療・予防法について説明できるようにする。				
12	〃 ⑩	〃				
13	〃 ⑪ 細菌による主な人獣共通感染症	細菌による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。サルモネラ症 等				
14	〃 ⑫	〃				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学Ⅱ				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインやBCSについても学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ(ファームプレス)</li> <li>・犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	6. 輸血に関わる技術	(1)輸血の適応とリスクについて理解する。 (2)輸血計画について理解する。				
2	6. 輸血に関わる技術	(3)クロスマッチ試験と血液型について理解する。				
3	6. 輸血に関わる技術	(4)各種輸血製剤の適応や特性について理解する。				
4	6. 輸血に関わる技術	(5)輸血に関わる手技について理解する。				
5	6. 輸血に関わる技術	(6)輸血による副反応について理解する。				
6	7. 心電図と血圧に関わる技術	(1)心電図検査の目的と意義について理解する。				
7	7. 心電図と血圧に関わる技術	(2)心電図検査の実施方法について理解する。				
8	7. 心電図と血圧に関わる技術	(3)血圧測定の方法と意義、注意点について理解する。				
9	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(1)X線検査の目的と意義について理解する。				
10	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(2)放射線防護について理解する。				
11	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(3)X線検査の実施方法と撮影体位について理解する。				
12	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(4)造影検査と透視検査について理解する。				
13	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(5)フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する。				
14	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(6)CT及びMRIの概要について理解する。				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学Ⅲ				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインやBCSについても学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	9. 超音波検査に関わる技術	(1)超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する。				
2	9. 超音波検査に関わる技術	(2)Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する。				
3	10. 内視鏡検査に関わる技術	(1)内視鏡検査の目的と意義について理解する。 (2)内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する。				
4	10. 内視鏡検査に関わる技術	(3)スコープの洗浄・消毒法について理解する。				
5	11. 神経学的検査に関わる技術	(1)姿勢反応と脊髄反射について理解する。				
6	11. 神経学的検査に関わる技術	(2)脳神経の検査法について理解する。				
7	11. 神経学的検査に関わる技術	(3)神経学的検査の評価記録法について理解する。				
8	12. 眼科検査に関わる技術	(1)シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する。				
9	12. 眼科検査に関わる技術	(2)眼圧測定の方法と意義について理解する。 (3)眼底検査の方法と意義について理解する。				
10	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(1)皮膚病変の観察と記録法について理解する。				
11	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(2)皮膚搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する。				
12	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(3)ウッド灯検査と真菌培養法について理解する。				
13	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(4)外耳道の検査方法と意義について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学 I				(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15:00~16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 外傷、創傷管理	(1)創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する。 (2)ドレーンの装着と管理法について理解する。				
2	1. 外傷、創傷管理	(3)止血法について理解する。 (4)骨折・脱臼の管理について理解する。				
3	2. 術前準備	(1)術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査について理解する。 (2)無菌的処置の重要性について理解する。				
4	2. 術前準備	(3)手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する。 (4)手術器具の準備と滅菌法について理解する。				
5	2. 術前準備	(5)手術室の機器類(無影灯、電気メス本体など)、準備について理解する。 (6)器械台の準備について理解する。				
6	2. 術前準備	(7)動物の適切なポジショニングについて理解する。 (8)術野の消毒について理解する。 (9)手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する。				
7	3. 麻酔	(1)麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する。 (2)麻酔リスクの評価(ASA分類など)について理解する。				
8	3. 麻酔	(3)麻酔前投与(鎮静など)について理解する。 (4)注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技について理解する。				
9	3. 麻酔	(5)吸入麻酔の手技について理解する。				
10	3. 麻酔	(6)導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。				
11	3. 麻酔	〃				
12	3. 麻酔	(7)麻酔看視項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など)の監視方法、意義について理解する。				
13	3. 麻酔	(8)麻酔記録の作成法について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学Ⅱ				(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	4. 術中補助	(1)代表的な手術器具 (メス、鉗子など) の名称と使用法について理解する。				
2	4. 術中補助	(2)代表的な縫合材 (縫合針、縫合糸) の分類と使用法について理解する。				
3	4. 術中補助	(3)代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する。				
4	4. 術中補助	(4)直接補助 (手袋着用下での補助) の内容について理解する。				
5	4. 術中補助	(5)間接補助 (手術回りの補助) の内容について理解する。				
6	5. 術後管理	(1)麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。				
7	5. 術後管理	(2)疼痛管理の意義と方法について理解する。 (3)術創管理と包帯法について理解する。				
8	5. 術後管理	(4)退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する。 (5)褥創の予防及び対処法 (体位変換など) について理解する。				
9	6. 救急救命	(1)エマージェンシーの原因と病態について理解する。				
10	6. 救急救命	(2)一次救命措置 (BLS) について理解する。 (3)二次救命措置 (ALS) について理解する。				
11	6. 救急救命	(4)気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する。				
12	7. 動物理学療法	(1)動物理学療法の目的と意義について理解する。				
13	7. 動物理学療法	(2)代表的な理学療法の原理と手技について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					



科 目			担 当			
動物臨床看護学各論Ⅱ			林田真琴(獣医師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供するべきか、評価と介入の方法を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系、循環器、生殖器、造血器、免疫介在性疾患等についてその機序・評価・治療等について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
授業計画	毎週月曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎				
2	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 食道炎、食道狭窄、巨大食道症				
3	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 蛋白喪失性腸症 (PLE)、炎症性腸疾患 (IBD)、食事反応性下痢 (FRD)、抗菌薬反応性下痢 (ARD)				
4	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群 (GDV)、胃炎				
5	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積				
6	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア				
7	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リピドーシス				
8	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症 (EPI)				
9	3. 代表的な疾患	(4)泌尿器疾患 急性腎障害 (AKI)、慢性腎臓病 (CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症 (PLN)				
10	3. 代表的な疾患	(4)泌尿器疾患 尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患 (FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症				
11	3. 代表的な疾患	(5)内分泌疾患 甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症 (クッシング症候群)				
12	3. 代表的な疾患	(5)内分泌疾患 副腎皮質機能低下症 (アジソン病)、尿崩症				
13	3. 代表的な疾患	(6)生殖器疾患 潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠				
14	3. 代表的な疾患	(6)生殖器疾患 難産、陰脱、乳腺炎、犬 ブルセラ症、乳腺腫瘍				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物医療コミュニケーション				高木菜穂美(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身につける。受付、クライアントコミュニケーションは受付で発生する飼主対応、接遇を学ぶ。初診時、再診時の状況に応じた飼主対応、社会人としての電話対応、精算、会計業務が正確にできる。在庫管理や備品管理、顧客管理などを学ぶ。スタッフとの間でクライアントと状況に応じたコミュニケーションを身につける。身だしなみ、表情、行動(態度)、挨拶、会話、報告、連絡、相談が確実にでき、チームワークに寄与できるよう学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。受付接遇、会話テクニック会計業務、電話対応、スタッフコミュニケーションについて実践をとおして学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学II (ファームプレス)</li> <li>動物看護学実習テキスト (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内コミュニケーション【基礎知識編】 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週木曜日	1限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	1. クライアントエデュケーション	(1)適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる。				
2	1. クライアントエデュケーション	(2)動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する。				
3	1. クライアントエデュケーション	(3)病気の適切な予防法(予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など)について理解する。				
4	1. クライアントエデュケーション	(4)在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する。				
5	2. 院内コミュニケーション	(1)飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する。				
6	2. 院内コミュニケーション	〃				
7	2. 院内コミュニケーション	(2)獣医療面接のプロセス(導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など)について理解する。				
8	2. 院内コミュニケーション	〃				
9	2. 院内コミュニケーション	(3)チーム獣医療に関するコミュニケーション技能(報告・連絡・相談)について理解する。				
10	2. 院内コミュニケーション	〃				
11	3. 院内業務	(1)受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について理解する。				
12	3. 院内業務	(2)物品購入や管理について理解する。				
13	3. 院内業務	(3)ペット保険について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
適正飼養指導論 I				増子元美(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
授業目標 授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材 参考書	・動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学 (ファームプレス)					
授業計画	毎週木曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 愛玩動物の飼養	(1)愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する。				
2	1. 愛玩動物の飼養	(2)愛玩動物飼養の現状について理解する。				
3	1. 愛玩動物の飼養	(3)愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する。				
4	1. 愛玩動物の飼養	(4)愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、グリーンケア、ペットロス についてその概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する。				
5	2. 適正飼養の推進	(1)適正飼養に関する支援の目的と活動 (民間団体等によるものを含む) について理解する。				
6	2. 適正飼養の推進	(2)動物取扱業者における適正飼養について理解する。				
7	2. 適正飼養の推進	(3)愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する。				
8	2. 適正飼養の推進	(4)問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する。				
9	2. 適正飼養の推進	"				
10	3. 災害危機管理と支援	(1)災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる。				
11	3. 災害危機管理と支援	"				
12	3. 災害危機管理と支援	(2)愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる。				
13	3. 災害危機管理と支援	"				
14	3. 災害危機管理と支援					
15	まとめ	"				

科 目				担 当		
適正飼養指導論Ⅱ				増子元美(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義	必修	30	1
授業目標 授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。</li> </ul>					
成績評価 の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材 参考書	動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学(ファームプレス)					
授業計画	毎週木曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 災害危機管理と支援	(3)災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する。				
2	3. 災害危機管理と支援	〃				
3	4. 動物愛護管理行政	(1)飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する。				
4	4. 動物愛護管理行政	〃				
5	4. 動物愛護管理行政	〃				
6	4. 動物愛護管理行政	〃				
7	4. 動物愛護管理行政	(2)動物愛護週間の役割と実施状況について理解する。				
8	4. 動物愛護管理行政	(3)犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する。				
9	4. 動物愛護管理行政	〃				
10	4. 動物愛護管理行政	(4)動物による事故の内容と報告状況について理解する。				
11	4. 動物愛護管理行政	(5)動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する。				
12	4. 動物愛護管理行政	(6)動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する。				
13	4. 動物愛護管理行政	〃				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物臨床検査学実習Ⅰ				黒田将仁（愛玩動物看護師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義で習得した知識の実践と、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し、基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。各検査機器の正しい扱い方、正常値、異常値の理解ができるようにする。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。</li> <li>血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診、心電図検査、X線検査、超音波検査、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査等</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 検体検査	(1)検体採取・処理の手順を習得している。				
2	1. 検体検査	(2)マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる。				
3	1. 検体検査	〃				
4	1. 検体検査	(3)血漿、血清を分離できる。				
5	1. 検体検査	〃				
6	1. 検体検査	(4)血液塗抹標本作製、染色できる。				
7	1. 検体検査	〃				
8	1. 検体検査	(5)血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる。				
9	1. 検体検査	〃				
10	1. 検体検査	(6)全血球計算及び血液化学検査を実施できる。				
11	1. 検体検査	〃				
12	1. 検体検査	(7)簡易血清学的検査を実施できる。				
13	1. 検体検査	〃				
14	1. 検体検査	(8)尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる。				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物臨床検査学実習Ⅱ</b>				黒田将仁（愛玩動物看護師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習Ⅰで習得した知識の実践と、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し、基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。各検査機器の正しい扱い方、正常値、異常値の理解ができるようにする。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。</li> <li>・血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診、心電図検査、X線検査、超音波検査、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査等</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護学実習テキスト（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 検体検査	(8)尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる。				
2	1. 検体検査	(9)尿沈渣を観察し、所見を記録できる。				
3	1. 検体検査	〃				
4	1. 検体検査	(10)糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる。				
5	1. 検体検査	〃				
6	1. 検体検査	(11)細胞診の準備、補助ができる。				
7	1. 検体検査	〃				
8	1. 検体検査	復習と発展				
9	1. 検体検査	〃				
10	1. 検体検査	〃				
11	1. 検体検査	〃				
12	1. 検体検査	〃				
13	1. 検体検査	〃				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学実習Ⅲ				黒田将仁（愛玩動物看護師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身につける。手術関連業務、術前、術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリングなどの詳細について理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術補助、救急救命等動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。手術における動物看護師の役割を理解し、周術期に果たす役割を理解できるようにする</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護学実習テキスト（エデュワードプレス）</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週水曜日	4限目	15：20～16：30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 術前準備	(1)手術器具の準備、滅菌ができる。				
2	1. 術前準備	(2)手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる。				
3	1. 術前準備	(3)手術に必要な機器、器械台を準備できる。				
4	1. 術前準備	(4)手術台への動物の固定、術野の消毒ができる。				
5	1. 術前準備	(5)手洗い、手術衣や手袋の装着ができる。				
6	2. 術中補助	(1)麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる。				
7	2. 術中補助	(2)モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる。				
8	2. 術中補助	(3)麻酔記録を作成することができる。				
9	2. 術中補助	(4)直接補助（器械の受渡しなど）ができる。				
10	2. 術中補助	(5)間接補助（無影灯、保温マットの操作など）ができる。				
11	2. 術中補助	(6)歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる。				
12	3. 術後管理	(1)術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる。				
13	3. 術後管理	(2)動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる。				
14	3. 術後管理	(3)抜糸の補助ができる。				
15	まとめ					

科 目			担 当			
動物外科看護学実習Ⅳ			黒田将仁（愛玩動物看護師）			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身につける。手術関連業務、術前、術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリングなどの詳細について理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術補助、救急救命等動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。手術における動物看護師の役割を理解し、周術期に果たす役割を理解できるようにする。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護学実習テキスト（エデュワードプレス）</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週水曜日	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	4. 救急救命	(1)必要な機材、薬剤を迅速に準備できる。				
2	4. 救急救命	(2)気管挿管を補助できる。				
3	4. 救急救命	(3)心肺蘇生（人工呼吸、心臓マッサージ）の手順を習得している。				
4	まとめ	総合実習				
5	まとめ	総合実習				
6	まとめ	総合実習				
7	まとめ	総合実習				
8	まとめ	総合実習				
9	まとめ	総合実習				
10	まとめ	総合実習				
11	まとめ	総合実習				
12	まとめ	総合実習				
13	まとめ	総合実習				
14	まとめ	総合実習				
15	まとめ					



動物臨床看護学実習 I - ①

科 目			担 当			
動物臨床看護学実習 I - ①			合志潤子(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1※
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原則、心電図、内視鏡、CT、MRI の基本原則について学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
参考書						
授業計画	金曜日 (月の最終週)	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(6)動物看護計画を作成できる。				
2	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	〃				
3	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(7)動物看護記録を作成できる。				
4	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	〃				
5	まとめ					

※授業時間は、〔動物臨床看護学実習 I - ①〕と〔動物臨床看護学実習 I - ②〕〔動物臨床看護学実習 I - ③〕を合わせて30時間となる。

科 目			担 当			
動物臨床看護学実習 I - ②			白石史絵(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1※
<b>授業目標</b>	・ 検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原則、心電図、内視鏡、CT、MRI の基本原則について学ぶ。					
<b>授業概要</b>	・ 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・ 動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス） ・ 動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス） ・ 動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (最終週以外)	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(1)事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する。				
2	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	"				
3	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(2)看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響を理解する。				
4	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	"				
5	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(3)症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する。				
6	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	"				
7	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(4)看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付けることができる。				
8	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	"				
9	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	(5)看護動物の援助の内容・方法を立案できる。				
10	1. 動物看護過程の実践（事例演習）	"				

※授業時間は、[動物臨床看護学実習 I - ①] と [動物臨床看護学実習 I - ②] [動物臨床看護学実習 I - ③] を合わせて30時間となる。

科 目				担 当		
動物臨床看護学実習 I - ③				井手浩信(理学療法士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1※
授業目標	・動物臨床看護における理学療法の実際を学ぶ					
授業概要	・動物看護過程や疾患別の看護などの具体例について理学療法の適用法を学ぶ					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
	※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。					
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス) ・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス) ・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)					
参考書						
授業計画	金曜日 4限目 15:00~16:30 (月第2週)					
回	テーマ	授業内容				
1	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
2	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
3	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
4	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
5	まとめ					

※授業時間は、[動物臨床看護学実習 I - ①] と [動物臨床看護学実習 I - ②] [動物臨床看護学実習 I - ③] を合わせて30時間となる。

動物臨床看護学実習Ⅱ－①

科 目				担 当		
動物臨床看護学実習Ⅱ－①				合志潤子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30※	1※
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原則、心電図、内視鏡、CT、MRIの基本原則について学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
参考書						
授業計画	金曜日 (月の最終週)	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	2. 入院及び栄養管理	(1)入院動物の管理、アセスメントができる。				
2	2. 入院及び栄養管理	〃				
3	2. 入院及び栄養管理	(2)ケージの清掃、管理ができる。				
4	2. 入院及び栄養管理	〃				
5	まとめ					

※授業時間は、[動物臨床看護学実習Ⅰ－①]と[動物臨床看護学実習Ⅰ－②][動物臨床看護学実習Ⅰ－③]を合わせて30時間となる。

科 目				担 当		
動物臨床看護学実習Ⅱ－②				白石史絵(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30※	1※
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原則、心電図、内視鏡、CT、MRIの基本原則について学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (第2週、最終週 以外)	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	2. 入院及び栄養管理	(3)ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる。				
2	2. 入院及び栄養管理	〃				
3	2. 入院及び栄養管理	(4)栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる。				
4	2. 入院及び栄養管理	〃				
5	2. 入院及び栄養管理	(5)褥瘡を持つ動物の看護（体位変換など）ができる。				
6	2. 入院及び栄養管理	〃				
7	まとめ	総合実習				
8	まとめ	総合実習				
9	まとめ	総合実習				
10	まとめ	総合実習				

※授業時間は、[動物臨床看護学実習Ⅰ－①]と[動物臨床看護学実習Ⅰ－②][動物臨床看護学実習Ⅰ－③]を合わせて30時間となる。

・動物臨床看護学実習Ⅱ－③

科 目				担 当		
動物臨床看護学実習Ⅱ－③				井手浩信（理学療法士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1※
授業目標	・動物臨床看護における理学療法の実際を学ぶ					
授業概要	・動物看護過程や疾患別の看護などの具体例について理学療法の適用法を学ぶ					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス） ・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス） ・動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）					
参考書						
授業計画	金曜日 (月第2週)	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
2	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
3	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
4	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
5	まとめ					

※授業時間は、〔動物臨床看護学実習Ⅱ－①〕と〔動物臨床看護学実習Ⅱ－②〕〔動物臨床看護学実習Ⅱ－③〕を合わせて30時間となる。

動物看護総合実習 I - ①

科 目				担 当		
<b>動物看護総合実習 I - ①</b>				合志潤子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (月最終週)	3限目	13:20~14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物看護業務の理解	(1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
2	1. 動物看護業務の理解	(2)動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する。				
3	1. 動物看護業務の理解	(3)愛玩動物を適正に管理する方法について理解する。				
4	2. 動物看護業務の体験	(1)診察室における獣医療補助行為を体験する。				
5	まとめ					

※授業時間は、[動物看護総合実習 I - ①] と [動物看護総合実習 I - ②] [動物看護総合実習 I - ③]を合わせて30時間となる。

科 目				担 当		
動物看護総合実習 I - ②				白石史絵(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (月最終週以外)	3限目	13:20~14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物看護業務の理解	(1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
2	1. 動物看護業務の理解	"				
3	1. 動物看護業務の理解	(2)動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する。				
4	1. 動物看護業務の理解	"				
5	1. 動物看護業務の理解	"				
6	1. 動物看護業務の理解	(3)愛玩動物を適正に管理する方法について理解する。				
7	1. 動物看護業務の理解	"				
8	1. 動物看護業務の理解	"				
9	2. 動物看護業務の体験	(1)診察室における獣医療補助行為を体験する。				
10	2. 動物看護業務の体験	"				

※授業時間は、[動物看護総合実習 I - ①] と [動物看護総合実習 I - ②] [動物看護総合実習 I - ③]を合わせて30時間となる。



・動物看護総合実習 I - ③

科 目				担 当		
動物看護総合実習 I - ③				井手浩信(理学療法士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30※	1
授業目標	・動物臨床看護における理学療法の実際を学ぶ					
授業概要	・動物看護過程や疾患別の看護などの具体例について理学療法の実用法を学ぶ					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス) ・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス) ・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)					
参考書						
授業計画	金曜日	3限目	13:20～14:50			
	(月第2週)					
回	テーマ	授業内容				
1	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
2	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
3	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
4	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
	まとめ					

※授業時間は、[動物看護総合実習 I - ①] と [動物看護総合実習 I - ②] [動物看護総合実習 I - ③] を合わせて30時間となる。

動物看護総合実習Ⅱ－①

科 目				担 当		
動物看護総合実習Ⅱ－①				合志潤子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30※	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (月最終週)	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	2. 動物看護業務の体験	(1)診察室における獣医療補助行為を体験する。				
2	2. 動物看護業務の体験	(2)各種検査や処置、外科手術の補助を体験する。				
3	2. 動物看護業務の体験	(3)入院動物の看護を体験する。				
4	2. 動物看護業務の体験	(4)飼い主との適切なコミュニケーションを体験する。				
5	まとめ					

※授業時間は、[動物看護総合実習Ⅱ－①]と[動物看護総合実習Ⅱ－②][動物看護総合実習Ⅱ－③]を合わせて30時間となる。

## 動物看護総合実習Ⅱ－②

科 目				担 当		
動物看護総合実習Ⅱ－②				白石史絵(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30※	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (月最終週以外)	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	2. 動物看護業務の体験	(1)診察室における獣医療補助行為を体験する。				
2	2. 動物看護業務の体験	(2)各種検査や処置、外科手術の補助を体験する。				
3	2. 動物看護業務の体験	〃				
4	2. 動物看護業務の体験	〃				
5	2. 動物看護業務の体験	〃				
6	2. 動物看護業務の体験	(3)入院動物の看護を体験する。				
7	2. 動物看護業務の体験	〃				
8	2. 動物看護業務の体験	〃				
9	2. 動物看護業務の体験	〃				
10	2. 動物看護業務の体験	(4)飼い主との適切なコミュニケーションを体験する。				

※授業時間は、[動物看護総合実習Ⅱ－①]と[動物看護総合実習Ⅱ－②][動物看護総合実習Ⅱ－③]を合わせて30時間となる。

・動物看護総合実習Ⅱ－③

科 目				担 当		
動物看護総合実習Ⅱ－③				井手浩信（理学療法士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30※	1
授業目標	・動物臨床看護における理学療法の実践を学ぶ					
授業概要	・動物看護過程や疾患別の看護などの具体例について理学療法の適用法を学ぶ					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス） ・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス） ・動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）					
参考書						
授業計画	金曜日	3限目	13：20～14：50			
	(月第2週)					
回	テーマ	授業内容				
1	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
2	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
3	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
4	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
	まとめ					

※授業時間は、〔動物看護総合実習Ⅱ－①〕と〔動物看護総合実習Ⅱ－②〕〔動物看護総合実習Ⅱ－③〕を合わせて30時間となる。

科 目				担 当		
動物看護総合実習Ⅲ－①				大川恵子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	60※	2
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
<b>回</b>	<b>テーマ</b>	<b>授業内容</b>				
1	2. 動物看護業務の体験	(4)飼い主との適切なコミュニケーションを体験する。				
2						
3	2. 動物看護業務の体験	〃				
4						
5	3. 動物看護業務の実践	(1)実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する。				
6						
7	3. 動物看護業務の実践	〃				
8						
9	3. 動物看護業務の実践	(2)スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する。				
10						
11	3. 動物看護業務の実践	〃				
12						
13	3. 動物看護業務の実践	〃				
14						
15	3. 動物看護業務の実践	(3)動物看護計画を立案し、実践する。				
16						
17	3. 動物看護業務の実践	〃				
18						
19	3. 動物看護業務の実践	(4)飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する。				
20						
21	3. 動物看護業務の実践	〃				
22						

※授業時間は、[動物看護総合実習Ⅲ－①]と[動物看護総合実習Ⅲ－②]を合わせて60時間となる。

・動物看護総合実習Ⅲ－②

科 目				担 当		
動物看護総合実習Ⅲ－②				井手浩信（理学療法士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	15※	1
<b>授業目標</b>	・動物臨床看護における理学療法の実際を学ぶ					
<b>授業概要</b>	・動物看護過程や疾患別の看護などの具体例について理学療法の実用法を学ぶ					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日	3限目	13：20～14：50			
	(月第3週)					
回	テーマ	授業内容				
1	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
2	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
3	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
4	動物臨床看護学における理学療法の実際①	事例への適用				
	まとめ					

※授業時間は、[動物看護総合実習Ⅲ－①]と[動物看護総合実習Ⅲ－②]を合わせて60時間となる。

科 目				担 当		
動物看護総合実習Ⅳ－①				大川恵子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	60※	2
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
<b>回</b>	<b>テーマ</b>	<b>授業内容</b>				
1	総合動物病院実習	総合実習				
2						
3	総合動物病院実習	総合実習				
4						
5	総合動物病院実習	総合実習				
6						
7	総合動物病院実習	総合実習				
8						
9	総合動物病院実習	総合実習				
10						
11	総合動物病院実習	総合実習				
12						
13	総合動物病院実習	総合実習				
14						
15	総合動物病院実習	総合実習				
16						
17	総合動物病院実習	総合実習				
18						
19	総合動物病院実習	総合実習				
20						
21	総合動物病院実習	総合実習				
22						

※授業時間は、〔動物看護総合実習Ⅳ－①〕と〔動物看護総合実習Ⅳ－②〕を合わせて60時間となる。

・動物看護総合実習Ⅳ－②

科 目				担 当		
<b>動物看護総合実習Ⅳ－②</b>				井手浩信（理学療法士）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	15※	1
<b>授業目標</b>	・動物臨床看護における理学療法の実践を学ぶ					
<b>授業概要</b>	・動物看護過程や疾患別の看護などの具体例について理学療法の適用法を学ぶ					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス） ・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス） ・動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	金曜日 (月第3週)	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
2	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
3	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
4	動物臨床看護学における理学療法の実践①	事例への適用				
	まとめ					
22						

※授業時間は、[動物看護総合実習Ⅳ－①]と[動物看護総合実習Ⅳ－②]を合わせて60時間となる。



科 目			担 当			
訓練学Ⅱ			山中彩紗子(警察犬訓練士)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、糞、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
			50点		50点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>JKC 基本訓練マニュアル</li> <li>日本警察犬協会 DVD</li> <li>訓練試験科目 DVD</li> </ul>					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学(日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
授業計画	毎週水曜日	1限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	犬猫の本能・ルーツ	犬猫の生態の違い				
2	犬種ごとの特性①	犬種ごとの性格、習性の違いを学ぶ				
3	” ②	”				
4	ボディランゲージ	表情、尻尾などで犬の心理を学ぶ				
5	カーミングシグナル	カーミングシグナルを学び日常で活かす				
6	犬の五感	視覚、聴覚、味覚、嗅覚 など				
7	生まれてから老犬になるまで①	成長過程において何が大きかを学ぶ				
8	” ②	”				
9	” ③	”				
10	訓練としつけの違い	家庭犬、使役犬の違い				
11	褒め方、叱り方、遊び方	いい褒め方、叱り方、遊び方について				
12	問題行動①	吠えぐせ、かみぐせ				
13	” ②	飛びつき、分離不安、引っぱり				
14	” ③	排泄の失敗、車嫌い、拾い食い				
15	まとめ					

ペットアロママッサージⅡ

科 目				担 当		
ペットアロママッサージⅡ				前田しのぶ(アロマコーディネーター)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科・動物管理学科管理コース	前期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	・運動不足、ストレスを蓄積し動きの悪くなった動物をリラックスさせるマッサージ法について学ぶ。この中には精油を用いるアロマセラピーも含む。					
授業概要	・実際にアロマオイルをブレンドし、モデル犬で効果を体験する。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・アロマオイルセット					
参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週金曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	ペットと人のホリスティック	ホリスティックについての学習				
2	ペットマッサージ1	東洋医学的、健康保持				
3	” 2	リンパマッサージを学ぶ				
4	” 3	リンパマッサージレクチャー(発表)				
5	” 4	犬のツボセラピー				
6	” 5	”				
7	” 6	犬のシャンプーマッサージ実践				
8	ハーブセラピー	チンギ、煎液、オイル作成				
9	”	”				
10	”	ハーブクラフト動物への実践				
11	メディカルドッグアロマケア1	精油を使用してのメディカルドッグアロマケア実践				
12	” 2	”				
13	” 3	”				
14	前期テストに向けて	復習				
15	まとめ					

## 特別講義

科 目				担 当		
特別講義				各招聘講師		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	・動物業界をはじめ社会の第一線で活躍する方を講師として招聘し、社会から望まれ必要とされる人物像や、心構え並びに様々なスキル等について講義をいただき学生の就職等への意欲的な取組につなぐ。					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材 参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週月曜日	1限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	SDG's	SDG's アソシエーション				
2	就職活動について	ハローワーク				
3	海外研修					
4	海外研修					
5	海外研修					
6	肥後ちゃぼについて	肥後ちゃぼ保存会				
7	熊本県の動物愛護について	熊本県動物愛護センター				
8	熊本市の動物愛護について	熊本市動物愛護センター				
9	動物園について	熊本市動植物園				
10	年金と社会保険について	日本年金機構				
11	野生動物について	ツシマヤマネコ野生純化センター				
12	国史にお決動物について	健軍神社				
13	鳥獣保護センターの役割について	熊本県鳥獣保護センター				
14	まとめ					
15	予備					

科 目				担 当		
ビジネスマナーⅡ				福田由吏		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科・動物管理学科管理コース	後期	講義・演習	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・ビジネスマナーⅠに引き続き、ビジネスマナーの講義を通じて、ビジネスの場で必要な基礎知識と技能を身につけ、実践できるようにする。また、インターンシップや就職面接を想定したロールプレイングを行い、社会人へ向けた準備を整える。					
<b>授業概要</b>	・動物業界のみならず、様々な場面におけるビジネスマナーを修得する。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	60点			20点	20点	
	※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。					
<b>教 材</b>	・院内コミュニケーション【基礎知識編】（エデュワードプレス） ・コミュニケーション・マナー&キャリア・ガイダンス第3版（エデュワードプレス）					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	コミュニケーション・マナー、笑顔と身だしなみ、挨拶、整理整頓	笑顔の作り方、プロとしての身だしなみ、明るい挨拶、女性らしい動作、整理整頓術				
2	名刺を作ろう	名刺制作、名刺交換				
3	聞く力、プレゼンテーション	聞くためのマナー、どのように伝えるか				
4	報・連・相、紹介のマナー	報告、連絡、相談時のポイント、要領、タイミング、自己紹介マナー、欠勤、遅刻、早退のマナー				
5	電話対応①	電話を受ける、電話をかける、スマートな取次、伝言メモ				
6	出勤から退勤まで、仕事の進め方 電話対応②	タイムスケジュール、PDCA サイクル、優先順位のつけ方				
7	新入社員教育の目的、職場のルール、電話対応③	会社組織の構造、チームワーク、厳守すること				
8	アポイントメントの取り方、面接、礼状の書き方	アポイントメントの例を挙げたロールプレイング、面接の流れとマナー、面接礼状文例				
9	冠婚葬祭(慶事)、お中元、お歳暮	招待状、のし袋、服装、披露宴のマナー、お中元、お歳暮の選び方				
10	冠婚葬祭(弔辞)	服装、香典、宗教別お参り作法				
11	ビジネス文書	社外文書、社内文書、お礼状、お詫び状				
12	プレゼンテーション①	テーマを決め、それぞれがみんなの前で発表する				
13	プレゼンテーション②	〃				
14	まとめ	まとめ				
15	まとめ					

ライセンス対策Ⅱ

科 目				担 当		
ライセンス対策Ⅱ				西島信彦(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義・演習	必修	30	1
授業目標	・					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週水曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	各種検定対策	過去問題集				
2	〃	〃				
3	〃	〃				
4	〃	〃				
5	〃	〃				
6	〃	〃				
7	〃	〃				
8	〃	〃				
9	〃	〃				
10	〃	〃				
11	〃	〃				
12	〃	〃				
13	〃	〃				
14	〃	〃				
15	〃	〃				

## トリミング実習Ⅲ

科 目			担 当			
トリミング実習Ⅲ			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	実習	必修	120	4
授業目標	・シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。					
授業概要	・トリミングの手技とともに、取扱い動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)					
授業計画	毎週木曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1-2	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
3-4						
5-6	〃	〃				
7-8						
9-10	〃	〃				
11-12						
13-14	〃	〃				
15-16						
17-18	〃	〃				
19-20						
21-22	〃	〃				
23-24						
25-26	〃	〃				
27-28						
29-30	〃	〃				
31-32						
33-34	〃	〃				
35-36						
37-38	〃	〃				
39-40						
41-42	〃	〃				
43-44						
45-46	〃	〃				
47-48						
49-50	〃	〃				
51-52						
53-54	まとめ試験					
55-56						
57-58	まとめ試験	〃				
59-60						

トリミング実習Ⅳ

科 目			担 当			
トリミング実習Ⅳ			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修G	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	実習	必修	120	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トリミングの手技とともに、取扱い動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)</li> </ul>					
授業計画	毎週木曜日	3 限目	13:20～14:50	4 限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1-2	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
3-4						
5-6	〃	〃				
7-8						
9-10	〃	〃				
11-12						
13-14	〃	〃				
15-16						
17-18	〃	〃				
19-20						
21-22	〃	〃				
23-24						
25-26	〃	〃				
27-28						
29-30	〃	〃				
31-32						
33-34	〃	〃				
35-36						
37-38	〃	〃				
39-40						
41-42	〃	〃				
43-44						
45-46	〃	〃				
47-48						
49-50	〃	〃				
51-52						
53-54	まとめ試験	〃				
55-56						
57-58	まとめ試験	〃				
59-60						





# 二年次科目

— 動物管理学科（管理コース） —



科 目				担 当		
動物形態機能学Ⅲ				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	6. 泌尿器と体液調節	(1)腎臓及びネフロン構造と機能について理解する。				
2	6. 泌尿器と体液調節	(2)クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する。				
3	6. 泌尿器と体液調節	〃				
4	6. 泌尿器と体液調節	(3)尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する。				
5	6. 泌尿器と体液調節	〃				
6	6. 泌尿器と体液調節	(4)体液の分布と区分、調節機構について理解する。				
7	6. 泌尿器と体液調節	(5)電解質バランスについて理解する。				
8	7. 脳と神経	(6)酸・塩基平衡について理解する。				
9	7. 脳と神経	(1)ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する。				
10	7. 脳と神経	(2)脳の構造と機能について理解する。				
11	7. 脳と神経	(3)脊髄の構造と機能について理解する。				
12	7. 脳と神経	(4)体性神経の構成と機能について理解する。				
13	7. 脳と神経	(5)自律神経の構成と機能について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物形態機能学Ⅳ				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	8. 運動器	(1)骨格の構成について理解する。				
2	8. 運動器	(2)骨の形状と構造について理解する。				
3	8. 運動器	(3)関節の構造と働きについて理解する。				
4	8. 運動器	(4)骨格筋の構造と収縮機構について理解する。				
5	8. 運動器	(5)主な骨格筋の名称と機能について理解する。				
6	9. 血液と造血器	(1)血球成分と血漿成分について理解する。				
7	9. 血液と造血器	(2)赤血球の構造と機能について理解する。				
8	9. 血液と造血器	(3)白血球の構造と機能について理解する。				
9	9. 血液と造血器	(4)血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する。				
10	10. 皮膚と感覚器	(1)皮膚の構と機能について理解する。				
11	10. 皮膚と感覚器	(2)皮膚の付属器官について理解する。				
12	10. 皮膚と感覚器	(3)体性感覚（皮膚感覚）について理解する。				
13	10. 皮膚と感覚器	(4)特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目		担 当				
動物形態機能学V		大杉剛生（獣医師）				
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>（免疫学）</li> <li>炎症と免疫の機序とアレルギーや自己免疫性疾患についても学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	炎症	炎症の五大主徴、関連する細胞				
2	免疫とは；体を守る仕組み	止血、皮膚、身体を守る				
3	免疫器官と免疫細胞	白血球の種類、体の免疫器官				
4	自然免疫系による防御	自然免疫系とは				
5	獲得免疫系（体液性免疫）	体液性免疫の仕組み				
6	抗体の種類と構造	免疫グロブリン				
7	獲得免疫系（細胞性免疫）	細胞性免疫の仕組み				
8	サイトカインについて	サイトカインの役割、インターロイキン				
9	免疫の応用と受動免疫	ワクチン感染症の制御、新生子の免疫・抗体の移行				
10	アレルギーの仕組み	免疫応答の異常				
11	抗体とアレルギーの遺伝	免疫に関する遺伝子について				
12	自己免疫疾患と免疫不全					
13	移植と拒絶反応					
14	免疫によるがん治療およびまとめ	免疫に関する問題を中心として				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物栄養学Ⅱ				津田圭子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六大栄養素を理解する。犬猫の必要栄養素の違いを理解する。ペットフードの表記を理解する。ライフステージの違いを理解する。BCS 評価及びカロリー計算ができるようにする。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎栄養素および主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的な知識と特別療法食の特性など、個体に合った適切な食事管理についての知識を身につける。またペットフードの市場について考察する。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	90点				10点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・動物栄養学（インターズー）</li> <li>・√ルート計算の出来る電卓を各自用意</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週月曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	復習					
2	3. フードと栄養指導	(5)肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する。				
3	3. フードと栄養指導	〃				
4	4. 疾患と栄養	(1)さまざまな疾患時の食事療法について理解する。				
5	4. 疾患と栄養	〃				
6	4. 疾患と栄養	(2)療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる。				
7	4. 疾患と栄養	〃				
8	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(1)強制給餌の方法と注意点について理解する。				
9	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(2)経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する。				
10	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	〃				
11	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(3)静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する。				
12	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	〃				
13	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(4)チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
比較動物学 I				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・飼養動物（動物産業動物、実験動物）、飼育管理法および畜産業等社会との関わりと野生動物について理解を深める。					
<b>授業概要</b>	・飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。家畜化の歴史人との関わり、牛、馬、豚、山羊、羊、鶏等の品種と飼養管理法について学ぶ。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3限目	13：20～14：50			
回	テーマ	授業内容				
1	実験動物①	(1)動物実験の目的、意義について理解する。				
2	実験動物②	(2)代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する。				
3	実験動物③	(3)遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する。				
4	実験動物④	(4)疾患モデル動物について理解する。				
5	野生動物①	(1)野生動物の分類と生物多様性について理解する。				
6	野生動物②	(2)野生動物の分類と生物多様性について理解する。				
7	野生動物③	(3)鳥獣害の現状と保全の意義について理解する。				
8	野生動物④	(4)絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する。				
9	野生動物⑤	(5)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。				
10	野生動物⑥	(6)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。				
11	展示動物①	(1)展示動物の意義と動物園等の役割について理解する。				
12	展示動物②	(2)動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する。				
13	展示動物③	(3)動物園等の施設管理について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物病理学				古田祥史（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科、動物管理学科管理コース	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・病気とはどのような現象か、どのような原因で病気が成立するか、また、臨床病理学にはどのような種類の病気があるかを学ぶ。また、病気に伴う生体内（細胞・組織）の基本的変化と名称の定義を学ぶ。更に、代謝障害、炎症、腫瘍、遺伝病、免疫異常疾患等とはどのような病気があるか、それらの病気による病理学的、臨床的变化について学ぶ。なお、高齢化に伴う生体の生理・機能的変化および多発しやすい疾患についても学ぶ。					
<b>授業概要</b>	・病理学の概要、正常な細胞・組織とその病的変化、新陳代謝障害、炎症、腫瘍、先天的異常、免疫疾患等、様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス） ・講師配付資料					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	2限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 動物病理学の基礎	(1)病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する。 (2)病理組織標本の作製法について理解する。				
2	1. 動物病理学の基礎	(3)病理組織学的検査の実施手順について理解する。				
3	2. 細胞や組織に生じる変化	(1)変性と物質沈着について理解する。 (2)壊死とアポトーシスについて理解する。				
4	2. 細胞や組織に生じる変化	(3)細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する。 (4)過形成と肥大について理解する。 (5)低形成と萎縮について理解する。				
5	3. 循環障害	(1)充血とうっ血について理解する。 (2)出血の原因と病態について理解する。				
6	3. 循環障害	(3)血栓の成因について理解する。 (4)虚血と梗塞について理解する。				
7	3. 循環障害	(5)浮腫と水腫について理解する。 (6)ショックの原因と分類、病態について理解する。 (7)播種性血管内凝固（DIC）の病態について理解する。				
8	4. 炎症	(1)炎症の定義と5大主徴について理解する。				
9	4. 炎症	(2)炎症の分類と原因と特徴について理解する。 (3)炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する。				
10	4. 炎症	(4)炎症の経過と治癒について理解する。				
11	5. 腫瘍	(1)腫瘍の定義と分類について理解する。 (2)腫瘍の原因と発生機序について理解する。				
12	5. 腫瘍	(3)腫瘍と宿主の関係について理解する。 (4)腫瘍の転移と進行について理解する。				
13	6. 先天異常	(1)遺伝子・染色体異常について理解する。 (2)発生異常と奇形について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					



科 目				担 当			
動物感染症学Ⅱ				仁木隆博（農学博士）			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位	
2年	動物看護学科・動物管理学科管理コース	前期	講義	必修	30	1	
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染、感染症、発症などの定義、感染症の成立条件、感染症の病原因子である細菌・真菌・ウイルスおよび原虫などに関する生物学的、物理化学的性状を学ぶ。更に、犬、猫等が罹患する主要な感染症とその感染経路、感染後の経過、臨床症状、診断、予防・治療方法、微生物学的検査方法、微生物材料の取り扱い方法等を学ぶ。</li> </ul>						
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。</li> </ul>						
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>		
	100点						
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>							
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>						
<b>参考書</b>							
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1限目	9：10～10：40				
回	テーマ	授業内容					
1	4. 動物感染症	(1)病原体の感染経路と伝播様式について理解する。					
2	4. 動物感染症	(2)感染症の成立要因について理解する。					
3	4. 動物感染症	(3)主な感染症（動物臨床看護学各論の3. 代表的な疾患を参照）の症状、治療法、予防法について理解する。					
4	4. 動物感染症	"					
5	4. 動物感染症	"					
6	4. 動物感染症	(4)消毒、滅菌法について理解する。					
7	4. 動物感染症	"					
8	4. 動物感染症	(5)院内感染の予防対策について理解する。					
9	5. 免疫学の基礎と応用	(1)免疫担当細胞とその役割について理解する。					
10	5. 免疫学の基礎と応用	(2)自然免疫と獲得免疫について理解する。					
11	5. 免疫学の基礎と応用	(3)液性免疫と細胞性免疫について理解する。					
12	5. 免疫学の基礎と応用	(4)アレルギー（I～V型）と自己免疫疾患について理解する。					
13	5. 免疫学の基礎と応用	(5)ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する。					
14	まとめ						
15	まとめ						

科 目				担 当		
動物内科看護学Ⅱ				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインやBCSについても学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	6. 輸血に関わる技術	(1)輸血の適応とリスクについて理解する。 (2)輸血計画について理解する。				
2	6. 輸血に関わる技術	(3)クロスマッチ試験と血液型について理解する。				
3	6. 輸血に関わる技術	(4)各種輸血製剤の適応や特性について理解する。				
4	6. 輸血に関わる技術	(5)輸血に関わる手技について理解する。				
5	6. 輸血に関わる技術	(6)輸血による副反応について理解する。				
6	7. 心電図と血圧に関わる技術	(1)心電図検査の目的と意義について理解する。				
7	7. 心電図と血圧に関わる技術	(2)心電図検査の実施方法について理解する。				
8	7. 心電図と血圧に関わる技術	(3)血圧測定の方法と意義、注意点について理解する。				
9	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(1)X線検査の目的と意義について理解する。				
10	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(2)放射線防護について理解する。				
11	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(3)X線検査の実施方法と撮影体位について理解する。				
12	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(4)造影検査と透視検査について理解する。				
13	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(5)フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する。				
14	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(6)CT及びMRIの概要について理解する。				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学Ⅲ				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインやBCSについても学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ(ファームプレス)</li> <li>・犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	3限目	13:20~14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	9. 超音波検査に関わる技術	(1)超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する。				
2	9. 超音波検査に関わる技術	(2)Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する。				
3	10. 内視鏡検査に関わる技術	(1)内視鏡検査の目的と意義について理解する。 (2)内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する。				
4	10. 内視鏡検査に関わる技術	(3)スコープの洗浄・消毒法について理解する。				
5	11. 神経学的検査に関わる技術	(1)姿勢反応と脊髄反射について理解する。				
6	11. 神経学的検査に関わる技術	(2)脳神経の検査法について理解する。				
7	11. 神経学的検査に関わる技術	(3)神経学的検査の評価記録法について理解する。				
8	12. 眼科検査に関わる技術	(1)シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する。				
9	12. 眼科検査に関わる技術	(2)眼圧測定の方法と意義について理解する。 (3)眼底検査の方法と意義について理解する。				
10	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(1)皮膚病変の観察と記録法について理解する。				
11	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(2)皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する。				
12	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(3)ウッド灯検査と真菌培養法について理解する。				
13	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(4)外耳道の検査方法と意義について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学 I				(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15:00~16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 外傷、創傷管理	(1)創傷の種類と治療過程と管理方法について理解する。 (2)ドレーンの装着と管理法について理解する。				
2	1. 外傷、創傷管理	(3)止血法について理解する。 (4)骨折・脱臼の管理について理解する。				
3	2. 術前準備	(1)術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査について理解する。 (2)無菌的処置の重要性について理解する。				
4	2. 術前準備	(3)手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する。 (4)手術器具の準備と滅菌法について理解する。				
5	2. 術前準備	(5)手術室の機器類(無影灯、電気メス本体など)、準備について理解する。 (6)器械台の準備について理解する。				
6	2. 術前準備	(7)動物の適切なポジショニングについて理解する。 (8)術野の消毒について理解する。 (9)手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する。				
7	3. 麻酔	(1)麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する。 (2)麻酔リスクの評価(ASA分類など)について理解する。				
8	3. 麻酔	(3)麻酔前投与(鎮静など)について理解する。 (4)注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技について理解する。				
9	3. 麻酔	(5)吸入麻酔の手技について理解する。				
10	3. 麻酔	(6)導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。				
11	3. 麻酔	〃				
12	3. 麻酔	(7)麻酔看視項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など)の監視方法、意義について理解する。				
13	3. 麻酔	(8)麻酔記録の作成法について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学Ⅱ				(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	4. 術中補助	(1)代表的な手術器具 (メス、鉗子など) の名称と使用法について理解する。				
2	4. 術中補助	(2)代表的な縫合材 (縫合針、縫合糸) の分類と使用法について理解する。				
3	4. 術中補助	(3)代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する。				
4	4. 術中補助	(4)直接補助 (手袋着用下での補助) の内容について理解する。				
5	4. 術中補助	(5)間接補助 (手術回りの補助) の内容について理解する。				
6	5. 術後管理	(1)麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。				
7	5. 術後管理	(2)疼痛管理の意義と方法について理解する。 (3)術創管理と包帯法について理解する。				
8	5. 術後管理	(4)退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する。 (5)褥創の予防及び対処法 (体位変換など) について理解する。				
9	6. 救急救命	(1)エマージェンシーの原因と病態について理解する。				
10	6. 救急救命	(2)一次救命措置 (BLS) について理解する。 (3)二次救命措置 (ALS) について理解する。				
11	6. 救急救命	(4)気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する。				
12	7. 動物理学療法	(1)動物理学療法の目的と意義について理解する。				
13	7. 動物理学療法	(2)代表的な理学療法の原理と手技について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物臨床看護学各論Ⅱ				林田真琴(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供するべきか、評価と介入の方法を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系、循環器、生殖器、造血器、免疫介在性疾患等についてその機序・評価・治療等について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア				
2	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存				
3	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症				
4	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群				
5	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 気管支拡張症、気管支炎、肺炎				
6	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 肺水腫、猫喘息、膿胸				
7	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 ジステンパー、ケンネルコフ				
8	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎				
9	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 食道炎、食道狭窄、巨大食道症				
10	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 蛋白喪失性腸症 (PLE)、炎症性腸疾患 (IBD)、食事反応性下痢 (FRD)、抗菌薬反応性下痢 (ARD)				
11	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群 (GDV)、胃炎				
12	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積				
13	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア				
14	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リポドーシス				
15	まとめ					

訓練学Ⅱ

科 目				担 当		
訓練学Ⅱ				山中彩紗子(警察犬訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
			50点		50点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> <li>トレーニング学（日本ペットビジネススクール協会）</li> </ul>					
授業計画	毎週水曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	犬猫の本能・ルーツ	犬猫の生態の違い				
2	犬種ごとの特性①	犬種ごとの性格、習性の違いを学ぶ				
3	” ②	”				
4	ボディランゲージ	表情、尻尾などで犬の心理を学ぶ				
5	カーミングシグナル	カーミングシグナルを学び日常で活かす				
6	犬の五感	視覚、聴覚、味覚、嗅覚 など				
7	生まれてから老犬になるまで①	成長過程において何が大きかを学ぶ				
8	” ②	”				
9	” ③	”				
10	訓練としつけの違い	家庭犬、使役犬の違い				
11	褒め方、叱り方、遊び方	いい褒め方、叱り方、遊び方について				
12	問題行動①	吠えぐせ、かみぐせ				
13	” ②	飛びつき、分離不安、引っ張り				
14	” ③	排泄の失敗、車嫌い、拾い食い				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>訓練学Ⅲ</b>				山中彩紗子(警察犬訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科	後期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
		50点			50点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	1 限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	生活の中の行動と心理	家庭内での注意点				
2	子犬の育て方	子犬の育て方				
3	〃	〃				
4	〃	〃				
5	服従訓練	実技を含む				
6	〃	〃				
7	ドッグスポーツ	アジリティ				
8	〃	フリスビー				
9	〃	フライボール				
10	臭気選別	遊びながらトレーニング				
11	〃	食物を使ってトレーニング				
12	グッドシチズン・ドッグ計画	グッドシチズン・ドッグ計画				
13	服従訓練実技	テスト (実技)				
14	服従訓練実技	テスト (実技)				
15	まとめ					



科 目				担 当		
<b>訓練学Ⅳ</b>				片岡玖美(訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科管理コース	前期	講義・実技	必修	60	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
		50点		50点		
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JKC 基本訓練マニュアル</li> <li>・日本警察犬協会 DVD</li> <li>・訓練試験科目 DVD</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	3 限目	13:20～14:50	4 限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1	日本警察犬協会 DVD	実技 (脚側行進・停座・伏臥・立止などをスムーズに行動できるようになる。) (ボールを使ったり、おやつを使ったり集中力とコントロール)				
2	日本警察犬訓練試験科目 DVD	〃				
3	訓練試験科目の説明	〃				
4	〃	〃				
5	ヨーロッパ式訓練方法 DVD	〃				
6	〃 DVD 説明	〃				
7	日本警察犬協会規定集	〃				
8	〃	〃				
9	〃	〃				
10	〃	〃				
11	〃	〃				
12	〃 豆辞典	〃				
13	〃 〃	〃				
14	〃 〃	〃				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>訓練学V</b>				片岡玖美(訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科管理コース	前期	講義・実技	必修	60	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点	50点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JKC 基本訓練マニュアル</li> <li>日本警察犬協会 DVD</li> <li>訓練試験科目 DVD</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1	国際訓練試験「BH」	脚側行進・停座・伏臥・立止・持来、強制持来、脚側停座・休止などの指示、声符などできているかスムーズにできるように指導				
2	〃	〃				
3	〃	〃				
4	〃	〃				
5	JKC 家庭犬訓練	〃				
6	〃	〃				
7	〃	〃				
8	〃	〃				
9	〃	〃				
10	〃	〃				
11	犬学の基礎と用語	〃				
12	〃	〃				
13	公認訓練士規定	〃				
14	〃	〃				
15	まとめ					

科 目			担 当			
販売学			高木弘和			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科	後期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物に関わる商品についての知識を学ぶ。フード、衣服、などの種類、流通、展示までを理解する。また、学生みずから商品の仕入れ、接客をすることにより商品の知識のみならず、ユーザーに対するアドバイザーとしての立場も理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点	50点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週水曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	(授業の流れ含め)・ペットグッズについて	ペット用品の種類、特徴などについて				
2	顧客満足の基礎知識・小売と流通	小売業の役割と流通の仕組み				
3	POP	POPの役割と効果				
4	ディスプレイ	商品陳列と売場作り（学生 Shop）				
5	〃	〃				
6	学生 Shop 運営	グループ分けをし、ローテーションで接客、販売を行うと同時に				
7	〃	・オリジナルグッズやオヤツ作り				
8	〃	・飼育犬でシャンプーなどのデモンストレーション				
9	〃	・仕入				
10	〃	・SNS や POP 用の写真の撮り方やアピール				
11	〃	・ラッピングの仕方、ギフト包装など				
12	〃	ペット用品の種類、特徴などについて				
13	〃					
14	〃					
15	まとめ					

ペットアロママッサージⅡ

科 目				担 当		
ペットアロママッサージⅡ				前田しのぶ(アロマコーディネーター)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科・動物管理学科管理コース	前期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動不足、ストレスを蓄積し動きの悪くなった動物をリラックスさせるマッサージ法について学ぶ。この中には精油を用いるアロマセラピーも含む。</li> <li>・実際にアロマオイルをブレンドし、モデル犬で効果を体験する。</li> </ul>					
授業概要						
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	・アロマオイルセット					
参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週金曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	ペットと人のホリスティック	ホリスティックについての学習				
2	ペットマッサージ1	東洋医学的、健康保持				
3	” 2	リンパマッサージを学ぶ				
4	” 3	リンパマッサージレクチャー（発表）				
5	” 4	犬のツボセラピー				
6	” 5	”				
7	” 6	犬のシャンプーマッサージ実践				
8	ハーブセラピー	チンギ、煎液、オイル作成				
9	”	”				
10	”	ハーブクラフト動物への実践				
11	メディカルドッグアロマケア1	精油を使用してのメディカルドッグアロマケア実践				
12	” 2	”				
13	” 3	”				
14	前期テストに向けて	復習				
15	まとめ					

特別活動

科 目				担 当		
特別講義				各招聘講師		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物業界をはじめ社会の第一線で活躍する方を講師として招聘し、社会から望まれ必要とされる人物像や、心構え並びに様々なスキル等について講義をいただき学生の就職等への意欲的な取組につなぐ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週月曜日	1限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	SDG's	SDG's アソシエーション				
2	就職活動について	ハローワーク				
3	海外研修					
4	海外研修					
5	海外研修					
6	肥後ちゃぼについて	肥後ちゃぼ保存会				
7	熊本県の動物愛護について	熊本県動物愛護センター				
8	熊本市の動物愛護について	熊本市動物愛護センター				
9	動物園について	熊本市動植物園				
10	年金と社会保険について	日本年金機構				
11	野生動物について	ツシマヤマネコ野生純化センター				
12	国史にお決動物について	健軍神社				
13	鳥獣保護センターの役割について	熊本県鳥獣保護センター				
14	まとめ					
15	予備					

科 目				担 当		
ビジネスマナーⅡ				福田由吏		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科・動物管理学科管理コース	後期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・ビジネスマナーⅠに引き続き、ビジネスマナーの講義を通じて、ビジネスの場で必要な基礎知識と技能を身につけ、実践できるようにする。また、インターンシップや就職面接を想定したロールプレイングを行い、社会人へ向けた準備を整える。					
<b>授業概要</b>	・動物業界のみならず、様々な場面におけるビジネスマナーを修得する。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	60点			20点	20点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・院内コミュニケーション【基礎知識編】(エデュワードプレス) ・コミュニケーション・マナー&キャリア・ガイダンス第3版(エデュワードプレス)					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	1限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	コミュニケーション・マナー、笑顔と身だしなみ、挨拶、整理整頓	笑顔の作り方、プロとしての身だしなみ、明るい挨拶、女性らしい動作、整理整頓術				
2	名刺を作ろう	名刺制作、名刺交換				
3	聞く力、プレゼンテーション	聞くためのマナー、どのように伝えるか				
4	報・連・相、紹介のマナー	報告、連絡、相談時のポイント、要領、タイミング、自己紹介マナー、欠勤、遅刻、早退のマナー				
5	電話対応①	電話を受ける、電話をかける、スマートな取次、伝言メモ				
6	出勤から退勤まで、仕事の進め方 電話対応②	タイムスケジュール、PDCAサイクル、優先順位のつけ方				
7	新入社員教育の目的、職場のルール、電話対応③	会社組織の構造、チームワーク、厳守すること				
8	アポイントメントの取り方、面接、礼状の書き方	アポイントメントの例を挙げたロールプレイング、面接の流れとマナー、面接礼状文例				
9	冠婚葬祭(慶事)、お中元、お歳暮	招待状、のし袋、服装、披露宴のマナー、お中元、お歳暮の選び方				
10	冠婚葬祭(弔辞)	服装、香典、宗教別お参り作法				
11	ビジネス文書	社外文書、社内文書、お礼状、お詫び状				
12	プレゼンテーション①	テーマを決め、それぞれがみんなの前で発表する				
13	プレゼンテーション②	〃				
14	まとめ	まとめ				
15	まとめ					

科 目				担 当		
就職支援				九動職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科	前期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	・					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
			50点	25点	25点	
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週水曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

トリミング実習Ⅴ

科 目			担 当			
<b>トリミング実習Ⅴ</b>			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科管理コース	前期	実習	必修	120※	4※
<b>授業目標</b>	・シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。					
<b>授業概要</b>	・トリミングの手技とともに、取扱い動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材 参考書</b>	・DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週木曜日	1限目	9:10～10:40	2限目	10:50～12:20	
		3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1-2	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
3-4						
5-6	〃	〃				
7-8						
9-10	〃	〃				
11-12						
13-14	〃	〃				
15-16						
17-18	〃	〃				
19-20						
21-22	〃	〃				
23-24						
25-26	〃	〃				
27-28						
29-30	〃	〃				
31-32						
33-34	〃	〃				
35-36						
37-38	〃	〃				
39-40						
41-42	〃	〃				
43-44						
45-46	〃	〃				
47-48						
49-50	〃	〃				
51-52						
53-54	まとめ試験					
55-56						
57-58	まとめ試験	〃				
59-60						

※木曜日に「動物園等実習」があるため、木曜日分の授業数及び単位は「動物園等実習」に表記している。



トリミング実習Ⅵ

科 目			担 当			
トリミング実習Ⅵ			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科管理コース	後期	実習	必修	120※	4※
授業目標	・シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。					
授業概要	・トリミングの手技とともに、取扱い動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	・DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)					
授業計画	毎週月曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週木曜日	1限目	9:10～10:40	2限目	10:50～12:20	
		3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1-2	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
3-4						
5-6	〃	〃				
7-8						
9-10	〃	〃				
11-12						
13-14	〃	〃				
15-16						
17-18	〃	〃				
19-20						
21-22	〃	〃				
23-24						
25-26	〃	〃				
27-28						
29-30	〃	〃				
31-32						
33-34	〃	〃				
35-36						
37-38	〃	〃				
39-40						
41-42	〃	〃				
43-44						
45-46	〃	〃				
47-48						
49-50	〃	〃				
51-52						
53-54	まとめ試験	〃				
55-56						
57-58	まとめ試験	〃				
59-60						

※木曜日に「動物園等実習」があるため、木曜日分の授業数及び単位は「動物園等実習」に表記している。

## 動物園等実習

科 目				担 当		
<b>動物園等実習</b>				西島信彦（愛玩動物看護師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科管理コース	通年	実習	必修	240※	8※
授業目標	・					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
			80点		20点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	・					
参考書						
授業計画	毎週木曜日	1 限目 9：10～10：40	2 限目 10：50～12：20	3 限目 13：20～14：50	4 限目 15：00～16：30	
回	テーマ	授業内容				
1-4	動植物園実習					
5-8	熊本県動物愛護センター					
9-12	動植物園実習					
13-16	熊本県動物愛護センター					
17-20	動植物園実習					
21-24	熊本県動物愛護センター					
25-28	動植物園実習					
29-32	熊本県動物愛護センター					
33-36	動植物園実習					
37-40	熊本県動物愛護センター					
41-44	動植物園実習					
45-48	熊本県動物愛護センター					
49-52	動植物園実習					
53-56	熊本県動物愛護センター					
1-4	動植物園実習					
5-8	熊本県動物愛護センター					
9-12	動植物園実習					
13-16	熊本県動物愛護センター					
17-20	動植物園実習					
21-24	熊本県動物愛護センター					
25-28	動植物園実習					
29-32	熊本県動物愛護センター					
33-36	動植物園実習					
37-40	熊本県動物愛護センター					
41-44	動植物園実習					
45-48	熊本県動物愛護センター					
49-52	動植物園実習					
53-56	熊本県動物愛護センター					
57-58	動植物園実習					
59-60	熊本県動物愛護センター					

※〔トリミング実習〕及び〔動物園等実習〕を合わせた授業時間及び単位数を表記している。

※〔動物園等実習〕は2回/月、半期（8回（64時間））実施予定。通年（128時間）で4単位を含む。

# 二年次科目

— 動物管理学科（トリマーコース） —



科 目				担 当		
動物形態機能学Ⅲ				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	6. 泌尿器と体液調節	(1)腎臓及びネフロン構造と機能について理解する。				
2	6. 泌尿器と体液調節	(2)クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する。				
3	6. 泌尿器と体液調節	"				
4	6. 泌尿器と体液調節	(3)尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する。				
5	6. 泌尿器と体液調節	"				
6	6. 泌尿器と体液調節	(4)体液の分布と区分、調節機構について理解する。				
7	6. 泌尿器と体液調節	(5)電解質バランスについて理解する。				
8	7. 脳と神経	(6)酸・塩基平衡について理解する。				
9	7. 脳と神経	(1)ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する。				
10	7. 脳と神経	(2)脳の構造と機能について理解する。				
11	7. 脳と神経	(3)脊髄の構造と機能について理解する。				
12	7. 脳と神経	(4)体性神経の構成と機能について理解する。				
13	7. 脳と神経	(5)自律神経の構成と機能について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物形態機能学Ⅳ</b>				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	8. 運動器	(1)骨格の構成について理解する。				
2	8. 運動器	(2)骨の形状と構造について理解する。				
3	8. 運動器	(3)関節の構造と働きについて理解する。				
4	8. 運動器	(4)骨格筋の構造と収縮機構について理解する。				
5	8. 運動器	(5)主な骨格筋の名称と機能について理解する。				
6	9. 血液と造血器	(1)血球成分と血漿成分について理解する。				
7	9. 血液と造血器	(2)赤血球の構造と機能について理解する。				
8	9. 血液と造血器	(3)白血球の構造と機能について理解する。				
9	9. 血液と造血器	(4)血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する。				
10	10. 皮膚と感覚器	(1)皮膚の構と機能について理解する。				
11	10. 皮膚と感覚器	(2)皮膚の付属器官について理解する。				
12	10. 皮膚と感覚器	(3)体性感覚（皮膚感覚）について理解する。				
13	10. 皮膚と感覚器	(4)特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物形態機能学V				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が自然界で生きてゆくためには、外部環境から自らを防衛しなければならない。そのためには皮膚での物理的な防御に加え、体内では異物を排除するための免疫機能が備わっている。動物では、複雑な免疫システムが発達しており、近年も様々な機能が明らかにされてきている。一方、アレルギーなどの過剰反応も生ずる。ここでは免疫の基本的な仕組みを理解し、動物看護の一助とすることを目的としている。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>（免疫学）</li> <li>炎症と免疫の機序とアレルギーや自己免疫性疾患についても学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学 I（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	炎症	炎症の五大主徴、関連する細胞				
2	免疫とは；体を守る仕組み	止血、皮膚、身体を守る				
3	免疫器官と免疫細胞	白血球の種類、体の免疫器官				
4	自然免疫系による防御	自然免疫系とは				
5	獲得免疫系（体液性免疫）	体液性免疫の仕組み				
6	抗体の種類と構造	免疫グロブリン				
7	獲得免疫系（細胞性免疫）	細胞性免疫の仕組み				
8	サイトカインについて	サイトカインの役割、インターロイキン				
9	免疫の応用と受動免疫	ワクチン感染症の制御、新生子の免疫・抗体の移行				
10	アレルギーの仕組み	免疫応答の異常				
11	抗体とアレルギーの遺伝	免疫に関する遺伝子について				
12	自己免疫疾患と免疫不全					
13	移植と拒絶反応					
14	免疫によるがん治療およびまとめ	免疫に関する問題を中心として				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物栄養学Ⅱ				津田圭子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5大栄養素を理解する。犬猫の必要栄養素の違いを理解する。ペットフードの表記を理解する。ライフステージの違いを理解する。BCS評価及びカロリー計算ができるようにする。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎栄養素および主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的な知識と特別療法食の特性など、個体に合った適切な食事管理についての知識を身につける。またペットフードの市場について考察する。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	90点				10点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・ 動物栄養学（インターズー）</li> <li>・ √ルート計算の出来る電卓を各自用意</li> <li>・ 講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週月曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	復習					
2	3. フードと栄養指導	(5)肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する。				
3	3. フードと栄養指導	〃				
4	4. 疾患と栄養	(1)さまざまな疾患時の食事療法について理解する。				
5	4. 疾患と栄養	〃				
6	4. 疾患と栄養	(2)療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる。				
7	4. 疾患と栄養	〃				
8	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(1)強制給餌の方法と注意点について理解する。				
9	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(2)経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する。				
10	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	〃				
11	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(3)静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する。				
12	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	〃				
13	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	(4)チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					



科 目				担 当		
比較動物学 I				大杉剛生 (獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・飼養動物（動物産業動物、実験動物）、飼育管理法および畜産業等社会との関わりと野生動物について理解を深める。					
<b>授業概要</b>	・飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。家畜化の歴史人との関わり、牛、馬、豚、山羊、羊、鶏等の品種と飼養管理法について学ぶ。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3 限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	実験動物①	(1)動物実験の目的、意義について理解する。				
2	実験動物②	(2)代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する。				
3	実験動物③	(3)遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する。				
4	実験動物④	(4)疾患モデル動物について理解する。				
5	野生動物①	(1)野生動物の分類と生物多様性について理解する。				
6	野生動物②	(2)野生動物の分類と生物多様性について理解する。				
7	野生動物③	(3)鳥獣害の現状と保全の意義について理解する。				
8	野生動物④	(4)絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する。				
9	野生動物⑤	(5)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。				
10	野生動物⑥	(6)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。				
11	展示動物①	(1)展示動物の意義と動物園等の役割について理解する。				
12	展示動物②	(2)動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する。				
13	展示動物③	(3)動物園等の施設管理について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
公衆衛生学 I				大杉剛生 (獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学課共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全などに活かせる知識を身につける。</li> <li>おもな人獣共通感染症、動物由来の人獣感染症の種類と病害発生の機序を理解する。また、滅菌、消毒の違いと、それぞれの処置方法を学ぶ。さらに国内外を問わず、動物輸送時や受入れの際に必要な知識を身につける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学 (ファームプレス)</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	公衆衛生学概論①	動物看護と公衆衛生の関係性を考え、公衆衛生の定義と目的及び活動を理解する。				
2	〃 ②	〃				
3	人獣共通感染症① 人獣共通感染症とは 伝搬様式、予防対策	人獣共通感染症の定義と現状を知る。新興と再興感染症の発生要因を知る。人獣共通感染症動物から人への感染様式と予防対策について学ぶ。				
4	〃 ②	〃				
5	〃 ③ 動物由来の主な人獣共通感染症 ウイルスによる人獣共通感染症	イヌ、ネコ、サル類、げっ歯類の人獣共通感染症にはどのようなものがあるかを学ぶ。 ウイルスの概要と性状について学ぶ。				
6	〃 ④	〃				
7	〃 ⑤ ウイルスによる人獣共通感染症	ウイルスによる主な人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
8	〃 ⑥	〃				
9	〃 ⑦	〃				
10	〃 ⑧	ウイルスとプリオンによる主な人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
11	〃 ⑨ 細菌による主な人獣共通感染症	細菌の概要と性状、症状、治療・予防法について説明できるようにする。				
12	〃 ⑩	〃				
13	〃 ⑪ 細菌による主な人獣共通感染症	細菌による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。サルモネラ症 等				
14	〃 ⑫	〃				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学Ⅱ				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインやBCSについても学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	2限目	10:50~12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	6. 輸血に関わる技術	(1)輸血の適応とリスクについて理解する。 (2)輸血計画について理解する。				
2	6. 輸血に関わる技術	(3)クロスマッチ試験と血液型について理解する。				
3	6. 輸血に関わる技術	(4)各種輸血製剤の適応や特性について理解する。				
4	6. 輸血に関わる技術	(5)輸血に関わる手技について理解する。				
5	6. 輸血に関わる技術	(6)輸血による副反応について理解する。				
6	7. 心電図と血圧に関わる技術	(1)心電図検査の目的と意義について理解する。				
7	7. 心電図と血圧に関わる技術	(2)心電図検査の実施方法について理解する。				
8	7. 心電図と血圧に関わる技術	(3)血圧測定の方法と意義、注意点について理解する。				
9	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(1)X線検査の目的と意義について理解する。				
10	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(2)放射線防護について理解する。				
11	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(3)X線検査の実施方法と撮影体位について理解する。				
12	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(4)造影検査と透視検査について理解する。				
13	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(5)フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する。				
14	8. X線検査とCT/MRIに関わる技術	(6)CT及びMRIの概要について理解する。				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物内科看護学Ⅲ				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を深め、動物看護に必要な疾病について学習する。特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物看護を実践できるよう知識を身につける。疾患によっては好発種や好発年齢があるので、そのポイントを把握したうえで、各症状を理解し、動物への看護法を身につける。概論として、バイタルサインやBCSについても学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ(ファームプレス)</li> <li>・犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3限目	13:20~14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	9. 超音波検査に関わる技術	(1)超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する。				
2	9. 超音波検査に関わる技術	(2)Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する。				
3	10. 内視鏡検査に関わる技術	(1)内視鏡検査の目的と意義について理解する。 (2)内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する。				
4	10. 内視鏡検査に関わる技術	(3)スコープの洗浄・消毒法について理解する。				
5	11. 神経学的検査に関わる技術	(1)姿勢反応と脊髄反射について理解する。				
6	11. 神経学的検査に関わる技術	(2)脳神経の検査法について理解する。				
7	11. 神経学的検査に関わる技術	(3)神経学的検査の評価記録法について理解する。				
8	12. 眼科検査に関わる技術	(1)シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する。				
9	12. 眼科検査に関わる技術	(2)眼圧測定の方法と意義について理解する。 (3)眼底検査の方法と意義について理解する。				
10	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(1)皮膚病変の観察と記録法について理解する。				
11	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(2)皮膚搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する。				
12	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(3)ウッド灯検査と真菌培養法について理解する。				
13	13. 皮膚と耳の検査に関わる技術	(4)外耳道の検査方法と意義について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学 I				(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15:00~16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	1. 外傷、創傷管理	(1)創傷の種類と治療過程と管理方法について理解する。 (2)ドレーンの装着と管理法について理解する。				
2	1. 外傷、創傷管理	(3)止血法について理解する。 (4)骨折・脱臼の管理について理解する。				
3	2. 術前準備	(1)術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査について理解する。 (2)無菌的処置の重要性について理解する。				
4	2. 術前準備	(3)手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する。 (4)手術器具の準備と滅菌法について理解する。				
5	2. 術前準備	(5)手術室の機器類(無影灯、電気メス本体など)、準備について理解する。 (6)器械台の準備について理解する。				
6	2. 術前準備	(7)動物の適切なポジショニングについて理解する。 (8)術野の消毒について理解する。 (9)手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する。				
7	3. 麻酔	(1)麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する。 (2)麻酔リスクの評価(ASA分類など)について理解する。				
8	3. 麻酔	(3)麻酔前投与(鎮静など)について理解する。 (4)注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技について理解する。				
9	3. 麻酔	(5)吸入麻酔の手技について理解する。				
10	3. 麻酔	(6)導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。				
11	3. 麻酔	〃				
12	3. 麻酔	(7)麻酔看視項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など)の監視方法、意義について理解する。				
13	3. 麻酔	(8)麻酔記録の作成法について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物外科看護学Ⅱ				(獣医師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	全学科共通	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ (ファームプレス)</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	4限目	15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容				
1	4. 術中補助	(1)代表的な手術器具 (メス、鉗子など) の名称と使用法について理解する。				
2	4. 術中補助	(2)代表的な縫合材 (縫合針、縫合糸) の分類と使用法について理解する。				
3	4. 術中補助	(3)代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する。				
4	4. 術中補助	(4)直接補助 (手袋着用下での補助) の内容について理解する。				
5	4. 術中補助	(5)間接補助 (手術回りの補助) の内容について理解する。				
6	5. 術後管理	(1)麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。				
7	5. 術後管理	(2)疼痛管理の意義と方法について理解する。 (3)術創管理と包帯法について理解する。				
8	5. 術後管理	(4)退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する。 (5)褥創の予防及び対処法 (体位変換など) について理解する。				
9	6. 救急救命	(1)エマージェンシーの原因と病態について理解する。				
10	6. 救急救命	(2)一次救命措置 (BLS) について理解する。 (3)二次救命措置 (ALS) について理解する。				
11	6. 救急救命	(4)気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する。				
12	7. 動物理学療法	(1)動物理学療法の目的と意義について理解する。				
13	7. 動物理学療法	(2)代表的な理学療法の原理と手技について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目			担 当			
動物臨床看護学各論Ⅱ			林田真琴(獣医師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供するべきか、評価と介入の方法を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系、循環器、生殖器、造血器、免疫介在性疾患等についてその機序・評価・治療等について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週月曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア				
2	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存				
3	3. 代表的な疾患	(1)循環器疾患 右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症				
4	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群				
5	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 気管支拡張症、気管支炎、肺炎				
6	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 肺水腫、猫喘息、膿胸				
7	3. 代表的な疾患	(2)呼吸器疾患 ジステンパー、ケンネルコフ				
8	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎				
9	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 食道炎、食道狭窄、巨大食道症				
10	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 蛋白喪失性腸症 (PLE)、炎症性腸疾患 (IBD)、食事反応性下痢 (FRD)、抗菌薬反応性下痢 (ARD)				
11	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群 (GDV)、胃炎				
12	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積				
13	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア				
14	3. 代表的な疾患	(3)消化器・栄養代謝性疾患 パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リポドーシス				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>訓練学Ⅱ</b>				山中彩紗子(警察犬訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
			50点		50点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日 1 限目 9:10～10:40					
回	テーマ	授業内容				
1	犬猫の本能・ルーツ	犬猫の生態の違い				
2	犬種ごとの特性①	犬種ごとの性格、習性の違いを学ぶ				
3	” ②	”				
4	ボディランゲージ	表情、尻尾などで犬の心理を学ぶ				
5	カーミングシグナル	カーミングシグナルを学び日常で活かす				
6	犬の五感	視覚、聴覚、味覚、嗅覚 など				
7	生まれてから老犬になるまで①	成長過程において何が大きかを学ぶ				
8	” ②	”				
9	” ③	”				
10	訓練としつけの違い	家庭犬、使役犬の違い				
11	褒め方、叱り方、遊び方	いい褒め方、叱り方、遊び方について				
12	問題行動①	吠えぐせ、かみぐせ				
13	” ②	飛びつき、分離不安、引っ張り				
14	” ③	排泄の失敗、車嫌い、拾い食い				
15	まとめ					



科 目				担 当		
<b>訓練学Ⅲ</b>				山中彩紗子(警察犬訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科	後期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動終生についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
		50点			50点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	1 限目	9 : 10～10 : 40			
回	テーマ	授業内容				
1	生活の中の行動と心理	家庭内での注意点				
2	子犬の育て方	子犬の育て方				
3	〃	〃				
4	〃	〃				
5	服従訓練	実技を含む				
6	〃	〃				
7	ドッグスポーツ	アジリティ				
8	〃	フリスビー				
9	〃	フライボール				
10	臭気選別	遊びながらトレーニング				
11	〃	食物を使ってトレーニング				
12	グッドシチズン・ドッグ計画	グッドシチズン・ドッグ計画				
13	服従訓練実技	テスト (実技)				
14	服従訓練実技	テスト (実技)				
15	まとめ					

科 目			担 当			
販売学			高木弘和			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科	後期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物に関わる商品についての知識を学ぶ。フード、衣服、などの種類、流通、展示までを理解する。また、学生みずから商品の仕入れ、接客をすることにより商品の知識のみならず、ユーザーに対するアドバイザーとしての立場も理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	50点	50点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週水曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	(授業の流れ含め)・ペットグッズについて	ペット用品の種類、特徴などについて				
2	顧客満足の基礎知識・小売と流通	小売業の役割と流通の仕組み				
3	POP	POPの役割と効果				
4	ディスプレイ	商品陳列と売場作り（学生 Shop）				
5	〃	〃				
6	学生 Shop 運営	グループ分けをし、ローテーションで接客、販売を行うと同時に				
7	〃	・オリジナルグッズやオヤツ作り				
8	〃	・飼育犬でシャンプーなどのデモンストレーション				
9	〃	・仕入				
10	〃	・SNS や POP 用の写真の撮り方やアピール				
11	〃	・ラッピングの仕方、ギフト包装など				
12	〃	ペット用品の種類、特徴などについて				
13	〃					
14	〃					
15	まとめ					

## 特別講義

科 目			担 当			
特別講義			各招聘講師			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	全学科共通	前期	講義	必修	30	1
授業目標	・動物業界をはじめ社会の第一線で活躍する方を講師として招聘し、社会から望まれ必要とされる人物像や、心構え並びに様々なスキル等について講義をいただき学生の就職等への意欲的な取組につなぐ。					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材 参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週月曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	SDG's	SDG's アソシエーション				
2	就職活動について	ハローワーク				
3	海外研修					
4	海外研修					
5	海外研修					
6	肥後ちゃぼについて	肥後ちゃぼ保存会				
7	熊本県の動物愛護について	熊本県動物愛護センター				
8	熊本市の動物愛護について	熊本市動物愛護センター				
9	動物園について	熊本市動植物園				
10	年金と社会保険について	日本年金機構				
11	野生動物について	ツシマヤマネコ野生純化センター				
12	国史にお決動物について	健軍神社				
13	鳥獣保護センターの役割について	熊本県鳥獣保護センター				
14	まとめ					
15	予備					

科 目				担 当		
就職支援				九動職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科トリマーコース	前期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	・					
授業概要	・					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
			50点	25点	25点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材 参考書	・講師配付資料					
授業計画	毎週水曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

## トリミング実習Ⅶ

科 目			担 当			
トリミング実習Ⅶ			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科トリマーコース	前期	実習	必修	360	12
授業目標	・ シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。					
授業概要	・ トリミングの手技とともに、取扱い動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	・ DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)					
授業計画	毎週月曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週木・金曜日	1限目	9:10～10:40	2限目	10:50～12:20	
		3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
回	テーマ	授業内容				
1-12	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
13-24						
25-36	〃	〃				
37-48	〃	〃				
49-60	〃	〃				
61-72	〃	〃				
73-84	〃	〃				
85-96	〃	〃				
97-108	〃	〃				
109-120	〃	〃				
121-132	〃	〃				
133-144	〃	〃				
145-156	〃	〃				
157-168	〃	〃				
169-180	〃	〃				
181-192	〃	〃				
193-204	〃	〃				
205-216	〃	〃				
217-228	〃	〃				
229-240	〃	〃				
241-252	〃	〃				
253-264	〃	〃				
265-276	〃	〃				
277-288	〃	〃				
289-300	〃	〃				
301-312	〃	〃				
313-324	〃	〃				
325-336	〃	〃				
337-348	〃	〃				
349-360	〃	〃				

トリミング実習Ⅷ

科 目			担 当			
トリミング実習Ⅷ			長倉絵里花(JKC 認定トリマー) 橋本沙耶(PSG 認定トリマー)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物管理学科トリマーコース	前期	実習	必修	360	12
授業目標	・ シャンプーからカットまでを学び、犬猫による特徴を強調する技術を理解し、実践力を身につける。犬、猫の長所と短所を見抜き個々の魅力を最大限に引き出すことを学ぶ。					
授業概要	・ トリミングの手技とともに、取扱い動物のボディチェックやバイタルサインの確認の習得も併せて行う。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	20点	80点				
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書	・ DOG GROOMING BOOK New Edition (エデュワードプレス)					
授業計画	毎週月曜日	3限目 13:20～14:50		4限目 15:00～16:30		
	毎週水曜日	3限目 13:20～14:50		4限目 15:00～16:30		
	毎週木・金曜日	1限目 9:10～10:40		2限目 10:50～12:20		
		3限目 13:20～14:50		4限目 15:00～16:30		
回	テーマ	授業内容				
1-12	モデル犬家庭犬によるグルーミング実習	実習				
13-24						
25-36	〃	〃				
37-48	〃	〃				
49-60	〃	〃				
61-72	〃	〃				
73-84	〃	〃				
85-96	〃	〃				
97-108	〃	〃				
109-120	〃	〃				
121-132	〃	〃				
133-144	〃	〃				
145-156	〃	〃				
157-168	〃	〃				
169-180	〃	〃				
181-192	〃	〃				
193-204	〃	〃				
205-216	〃	〃				
217-228	〃	〃				
229-240	〃	〃				
241-252	〃	〃				
253-264	〃	〃				
265-276	〃	〃				
277-288	〃	〃				
289-300	〃	〃				
301-312	〃	〃				
313-324	〃	〃				
325-336	〃	〃				
337-348	〃	〃				
349-360	〃	〃				

# 三年次科目

—動物看護学科—





科 目				担 当		
比較動物学Ⅱ				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・飼養動物（動物産業動物、実験動物）、飼育管理法および畜産業等社会との関わりと野生動物について理解を深める。					
<b>授業概要</b>	・飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。家畜化の歴史人との関わり、牛、馬、豚、山羊、羊、鶏等の品種と飼養管理法について学ぶ。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。						
※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第2巻 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス）					
<b>参考書</b>	・講師配付資料					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	1限目	9：10～10：40			
回	テーマ	授業内容				
1	動物の種類及び特性①  動物の種類及び特性②	(1)愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する。 (2) 〃				
2	産業動物①  産業動物②	(1)家畜（馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏）の歴史と品種、特徴について理解する。 (2) 〃				
3	産業動物③	(3)各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する。				
4	産業動物④	(4) 〃				
5	産業動物⑤	(5)各家畜の性周期と繁殖生理について理解する。				
6	産業動物⑥	(6) 〃				
7	産業動物⑦	(7)各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する。				
8	産業動物⑧	(8)各家畜の性周期と繁殖生理について理解する。				
9	産業動物⑨	(9) 〃				
10	産業動物⑩	(10)各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する。				
11	産業動物⑪	(11) 〃				
12	産業動物⑫	(12)各家畜の飼養施設の概要について理解する。				
13	産業動物⑬	(13)各家畜の食性と飼養法について理解する。				
14	中間まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
公衆衛生学Ⅱ				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全などに活かせる知識を身につける。</li> <li>・おもな人獣共通感染症、動物由来の人獣感染症の種類と病害発生の機序を理解する。また、滅菌、消毒の違いと、それぞれの処置方法を学ぶ。さらに国内外を問わず、動物輸送時や受入れの際に必要な知識を身につける。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	人獣共通感染症⑬ 細菌による主な人獣共通感染症	細菌による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。炭疽、結核 等				
2	” ⑭	”				
3	” ⑮	”				
4	” ⑯	”				
5	” ⑰	細菌による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。猫ひっかき病 等				
6	” ⑱	”				
7	” ⑲ 真菌による主な人獣共通感染症	真菌による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
8	” ⑳	”				
9	” ㉑ 寄生虫による主な人獣共通感染症	原虫による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
10	” ㉒	”				
11	” ㉓	原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症の概要や症状、治療・予防法の説明ができるようにする。				
12	” ㉔	”				
13	滅菌と消毒①②③ 滅菌、消毒について	滅菌と消毒の違い、物理的、科学的滅菌方法について学ぶ。				
14	動物防疫学①② 人獣共通感染症の対策	人獣共通感染症の対策について学ぶ。 伴侶動物と共生するうえでの人獣共通感染症の対策				
15	まとめ	0				

科 目				担 当		
動物臨床看護学各論Ⅲ				黒田将仁（愛玩動物看護師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供するべきか、評価と介入の方法を修得する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系、循環器、生殖器、造血器、免疫介在性疾患等についてその機序・評価・治療等について学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護学実習テキスト（エデュワードプレス）</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	3限目	13：20～14：50			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 代表的な疾患	(7)整形外科疾患 骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼				
2	3. 代表的な疾患	(7)整形外科疾患 関節炎、変形性関節症				
3	3. 代表的な疾患	(7)整形外科疾患 前十字靭帯断裂、股異形成				
4	3. 代表的な疾患	(7)整形外科疾患 レッグ・ペルテス病、骨肉腫				
5	3. 代表的な疾患	(8)皮膚疾患 膿皮症、脂漏症				
6	3. 代表的な疾患	(8)皮膚疾患 アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫				
7	3. 代表的な疾患	(8)皮膚疾患 食物アレルギー				
8	3. 代表的な疾患	(8)皮膚疾患 天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、				
9	3. 代表的な疾患	(8)皮膚疾患 皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ				
10	3. 代表的な疾患	(9)神経疾患 脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群				
11	3. 代表的な疾患	(9)神経疾患 脳椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群				
12	3. 代表的な疾患	(10)眼疾患 結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍				
13	3. 代表的な疾患	(10)眼疾患 緑内障、白内障、核硬化症				
14	3. 代表的な疾患	(10)眼疾患 流涙症、第三眼瞼腺脱出（チェリーアイ）、異所性睫毛				
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物臨床看護学各論Ⅳ				黒田将仁（愛玩動物看護師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系、循環器、生殖器、造血器、免疫介在性疾患等についてその機序・評価・治療等について学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>動物看護学実習テキスト（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	3限目	13：20～14：50			
回	テーマ	授業内容				
1	3. 代表的な疾患	(1)造血器・免疫介在性疾患 免疫介在性溶血性貧血（IMHA）、ネギ中毒				
2	3. 代表的な疾患	(1)造血器・免疫介在性疾患 ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病				
3	3. 代表的な疾患	(1)造血器・免疫介在性疾患 猫伝染性腹膜炎（FIP）				
4	3. 代表的な疾患	(1)造血器・免疫介在性疾患 猫白血病ウイルス（FeLV）				
5	3. 代表的な疾患	(1)造血器・免疫介在性疾患 猫免疫不全ウイルス（FIV）感染症				
6	3. 代表的な疾患	(1)造血器・免疫介在性疾患 リンパ腫、白血病、肥満細胞腫				
7	3. 代表的な疾患	(2)緊急疾患 交通事故				
8	3. 代表的な疾患	(2)緊急疾患 感電、熱傷、熱中症				
9	3. 代表的な疾患	(2)緊急疾患 中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー				
10	4. 担がん動物の看護	(1)がんの診断のための検査と治療の手順について理解する。				
11	4. 担がん動物の看護	(2)腫瘍随伴症候群について理解する。				
12	4. 担がん動物の看護	(3)がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する。				
13	4. 担がん動物の看護	(4)担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する。 外科療法、放射線療法				
14	4. 担がん動物の看護	(4)担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する。 化学療法、免疫療法、化学療法の副作用				
15	まとめ					

科 目			担 当			
ペット関連産業概論			林小百合			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
授業目標	・					
授業概要	・ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。					
成績評価 の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材	・動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学 (ファームプレス)					
授業計画	毎週火曜日	1 限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	1. ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	(1)責任と社会的役割を理解する。(職業倫理)				
2	1. ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	(2)商取引における関連法規の概要について理解する。				
3	1. ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	(3)動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する。				
4	2. ペットの飼養実態と市場規模	(1)ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する。				
5	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など) の現状と課題を理解する。				
6	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (生体分野など) の現状と課題を理解する。				
7	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (美容・ヘルスケア分野など) の現状と課題を理解する。				
8	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (レクリエーション・観光分野など) の現状と課題を理解する。				
9	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (葬儀・霊園分野など) の現状と課題を理解する。				
10	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (獣医療分野など) の現状と課題を理解する。				
11	3. 各ペット関連産業の現状と課題	(1)ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス (ペット共生住宅・マンション分野など) の現状と課題を理解する。				
12	4. 動物取扱業	(1)動物取扱業制度の概要について理解する。				
13	4. 動物取扱業	(2)動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する。				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
グリーフケア概論				池上美紀(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーフ (grief) とは悲嘆を意味する。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークといい、グリーフケアとはその作業を支援することである。心理学的観点からケアの姿勢の在り方を学びながら、家族の一員である動物たちのターミナルケアから QOL (quality of life 生活の質)、喪失体験した飼主へのグリーフケアについて専門知識を身につけ、ケアの際の態度をも学び理解する。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における動物事情の現状を理解し、さまざまなケースのグリーフケアについて学ぶ。</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第6巻 愛護・適正飼養学 (ファームプレス)</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
参考書						
授業計画	毎週火曜日	1 限目	9:10~10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	グリーフ、グリーフケアとは					
2	日本のペットライフの特徴	海外との違いを理解し、日本の文化に合った動物医療を提供する。				
3	グリーフの意味と心理過程	グリーフの心理過程の基本パターンを知り実践する。				
4	グリーフケアコミュニケーション	飼主とのコミュニケーション法を知る。				
5	待合室診療の実践	待合室でみられるグリーフとアプローチ法。				
6	ペットに現れるグリーフとグリーフケア	グリーフがもたらす深刻なストレスを知りペット目線でアプローチする。				
7	治る病気でのグリーフケア	医療時の正しいグリーフケア。				
8	治らない病気でのグリーフケア	インフォームドコンセントの重要性について				
9	治らない病気でのグリーフケア	ターミナルのグリーフケア				
10	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死について				
11	死後のグリーフケアと命を繋ぐ	生前のグリーフケアから死後のグリーフケアについて				
12	まとめ					
13	まとめ					
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>訓練学Ⅲ</b>				山中彩紗子(警察犬訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点	50点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JKC 基本訓練マニュアル</li> <li>日本警察犬協会 DVD</li> <li>訓練試験科目 DVD</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	生活の中の行動と心理	家庭内での注意点				
2	生活の中の行動と心理	〃				
3	子犬の育て方	子犬の育て方				
4	子犬の育て方	〃				
5	子犬の育て方	〃				
6	子犬の育て方	〃				
7	子犬の育て方	〃				
8	子犬の育て方	〃				
9	服従訓練	実技				
10	服従訓練	〃				
11	服従訓練	〃				
12	服従訓練	〃				
13	ドッグスポーツ	アジリティ				
14	ドッグスポーツ	〃				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>訓練学Ⅳ</b>				山中彩紗子(警察犬訓練士)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。</li> <li>訓練士の役割、愛犬家のモラル向上、躰、訓練による社会生活について理解する。</li> <li>ルール、ドッグスポーツ、犬を通しての社会貢献犬の本能・行動習性についての基本的なことを理解し、テーマごとにトレーニング技術を修得する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の行動様式を学び、トレーニングの開始時期、家庭犬のトレーニング、競技会の科目の内容まで学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点	50点				
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JKC 基本訓練マニュアル</li> <li>日本警察犬協会 DVD</li> <li>訓練試験科目 DVD</li> </ul>					
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニング学 (日本ペットビジネススクール協会)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週水曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	ドッグスポーツ	フリスビー				
2	ドッグスポーツ	〃				
3	ドッグスポーツ	フライボール				
4	ドッグスポーツ	〃				
5	臭気選別	遊びながらトレーニング				
6	臭気選別	〃				
7	臭気選別	食物を使ってトレーニング				
8	臭気選別	〃				
9	グッドシチズン・ドッグ計画	グッドシチズン・ドッグ計画				
10	グッドシチズン・ドッグ計画	〃				
11	服従訓練実技	テスト (実技)				
12	服従訓練実技	〃				
13	服従訓練実技	〃				
14	服従訓練実技	〃				
15	まとめ					



科 目			担 当			
<b>動物理学療法学 I</b>			大塚敦子(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法は、低下した機能の改善だけでなく、動物が本来持っている機能をより良く働かせるための手段でもある。質の良い生活を共に過ごすための療法のひとつでもある。欧米ではすでに確立された領域である。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッサージ療法、徒手療法、物理療法、活動的・補助的運動療法の内容からなり、痛みの緩和、機能の回復をサポートし生活の向上を目指す学問である。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス)</li> <li>動物看護実習テキスト第3版 (エデュワードプレス)</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1限目	9:10～10:40			
回	テーマ	授業内容				
1	理学療法とは何か	理学療法の概念と手法を学ぶ。				
2	犬のリハビリテーション入門	犬のリハビリに必要な知識を学ぶ。				
3	犬のリハビリテーション入門	犬のリハビリに必要な知識を学ぶ。				
4	犬の骨学と関節学	犬の骨と関節の解剖学的特徴と機能について学ぶ。				
5	犬の骨学と関節学	犬の骨と関節の解剖学的特徴と機能について学ぶ。				
6	犬の筋学	犬の筋の解剖学的特徴と機能について学ぶ。				
7	犬の筋学	犬の筋の解剖学的特徴と機能について学ぶ。				
8	神経解剖学	犬の神経の解剖学的特徴と機能について学ぶ。				
9	神経解剖学	犬の神経の解剖学的特徴と機能について学ぶ。				
10	一般的な神経学的な病態	低下した運動機能等の神経学的な病理について学ぶ。				
11	一般的な神経学的な病態	低下した運動機能等の神経学的な病理について学ぶ。				
12	後肢の一般的な疾患	後肢の疾患と病態について学ぶ。				
13	後肢の一般的な疾患	後肢の疾患と病態について学ぶ。				
14	前肢の一般的な疾患	前肢の疾患と病態について学ぶ。				
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物理学療法学Ⅱ</b>				大塚敦子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法は、低下した機能の改善だけでなく、動物が本来持っている機能をより良く働かせるための手段でもある。質の良い生活を共に過ごすための療法のひとつでもある。欧米ではすでに確立された領域である。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッサージ療法、徒手療法、物理療法、活動的・補助的運動療法の内容からなり、痛みの緩和、機能の回復をサポートし生活の向上を目指す学問である。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	前肢の一般的な疾患	前肢の疾患と病態について学ぶ。				
2	犬の行動学とハンドリング	犬の行動様式とハンドリングについて学ぶ。				
3	犬の行動学とハンドリング	〃				
4	犬の検査	犬の理学療法的なアプローチからの検査手技について学ぶ。				
5	犬の検査	〃				
6	整形外科的評価	骨、筋、関節および神経疾患の評価について学ぶ。				
7	整形外科的評価	〃				
8	神経学的検査	機能低下に伴う神経学的なアプローチ法について学ぶ。				
9	神経学的検査	〃				
10	チームアプローチ	理学療法導入検討に伴うチーム評価の役割分担について学ぶ。				
11	チームアプローチ	〃				
12	チームアプローチ	〃				
13	チームアプローチ	〃				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>動物理学療法学実習 I</b>				大塚敦子(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・獣医療のチームの一員として、動物理学療法学で修得した知識・技術を実際に使い、炎症の軽減、関節の柔軟性、筋肉の強化、飼い主の負担軽減等の効果を確認する。					
<b>授業概要</b>	・竜之介動物病院のリハビリテーションスタッフと連携して取り組む。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	25点	25点	50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学 I (ファームプレス) ・講師配付資料					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	理学療法の実際について	様々な手法について学ぶ。				
2	理学療法の実際について	〃				
3	理学療法の実際について	〃				
4	関節可動域とストレッチについて	ストレッチに伴う関節可動域を学ぶ。				
5	関節可動域とストレッチについて	〃				
6	関節可動域とストレッチについて	〃				
7	水中運動について	水中運動実際の評価と留意点について学ぶ。				
8	水中運動について	〃				
9	水中運動について	〃				
10	運動療法について	運動療法の評価と留意点について学ぶ。				
11	運動療法について	〃				
12	運動療法について	〃				
13	物理療法について	物理療法の評価と留意点について学ぶ。				
14	物理療法について	〃				
15	まとめ					

科 目			担 当			
<b>動物物理学療法学実習Ⅱ</b>			大塚敦子(愛玩動物看護師)			
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	30	1
<b>授業目標</b>	・獣医療のチームの一員として、動物物理学療法学で修得した知識・技術を実際に使い、炎症の軽減、関節の柔軟性、筋肉の強化、飼い主の負担軽減等の効果を確認する。					
<b>授業概要</b>	・竜之介動物病院のリハビリテーションスタッフと連携して取り組む。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	25点	25点	50点			
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b>	・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ(ファームプレス) ・講師配付資料					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	物理療法について	物理療法の評価と留意点について学ぶ。				
2	動作訓練	様々な病態での動作訓練について学ぶ。				
3	動作訓練	〃				
4	動作訓練	〃				
5	治療体操等	治療体操について学ぶ。				
6	治療体操等	〃				
7	電気治療法	電気治療法について学ぶ。				
8	レーザー治療法	レーザー治療法について学ぶ。				
9	マッサージ法	小動物臨床におけるマッサージについて学ぶ。				
10	マッサージ法	〃				
11	温熱利用法	加熱療法の原則について学ぶ。				
12	温熱利用法	冷却療法の原則について学ぶ。				
13	まとめ					
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
動物の疼痛管理学				大杉剛生（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>痛みを感じる能力は伴侶動物を含むすべての哺乳動物にあり、動物の痛みによる苦しみをできるだけ軽減するのが獣医療に携る者の道徳的かつ倫理的義務である。疼痛の程度の正確な評価が疼痛管理には必要である。症例の痛みの程度を評価し、痛みの認識と治療は進歩したものの、緩和ケアを含む福祉の観点からの十分な疼痛管理が不十分であり、その概要と課題、人道的安楽死についても理解する。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疼痛管理の入門からその判別と評価法、麻酔薬、鎮痛薬による痛みの管理、不妊術、外科内科、救急医療時のプロトコルについて学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第1巻 基礎動物学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> </ul>					
<b>参考書</b>						
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	4限目	15：00～16：30			
回	テーマ	授業内容				
1	疼痛管理入門	痛みの生理学と病態生理学				
2	疼痛管理入門	犬猫の急性痛と慢性痛の認識と評価				
3	疼痛管理入門	犬猫の疼痛治療の評価				
4	疼痛管理入門	神経因性疼痛と各種病態にともう知覚される痛みのレベル				
5	痛みの管理	痛み治療の一般的なアプローチ、オピオイド、非ステロイド系抗炎症薬				
6	痛みの管理	アドレナリン受容体作動薬、局所麻酔薬、鎮痛薬の投与技術				
7	痛みの管理	身体リハビリテーション、食餌と栄養補助食品				
8	痛みの管理	看護と支持療法、鍼治療、医療マッサージ、救済的外科手術				
9	疼痛管理のプロトコル	犬猫の去勢手術と避妊手術				
10	疼痛管理のプロトコル	整形外科、軟組織の外科、局所治療技術、眼科・歯科の手技				
11	疼痛管理のプロトコル	救急救命、内科疼痛、妊娠授乳期の疼痛、癌性疼痛				
12	疼痛管理のプロトコル	人道的安楽死の概要				
13	疼痛管理のプロトコル	緩和ケア等福祉的な配慮				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
<b>幼齢動物看護学</b>				増子元美(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	15	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことからいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。幼齢動物の生理看護の特徴について理解する。授乳期、離乳期、社会化期等、適切な飼養管理について学ぶ。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新生児の疾患とケア、老齢動物の疾患と管理について総合的に学ぶ。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S(100~90)、A(89~80)、B(79~70)、C(69~60)とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学II (ファームプレス)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	3限目	13:20~14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	若齢動物の身体検査	身体検査時の検査項目について理解する。				
2	若齢動物の予防プログラム	各種ワクチン接種と寄生虫予防駆除について学ぶ。				
3	若齢動物の疾患－心臓疾患	先天性疾患と後天性疾患について学ぶ。				
4	若齢動物の疾患－呼吸器疾患	犬猫のウイルス感染症、横隔膜ヘルニア等について学ぶ。				
5	若齢動物の疾患－消化器疾患	乳歯遺残、下痢、門脈体循環シャント等について学ぶ。				
6	若齢動物の疾患－筋骨格系疾患	犬股関節形成不全、レッグ・ペルテス病、膝蓋骨脱臼等について学ぶ。				
7	若齢動物の疾患－泌尿生殖器系疾患	潜在精巣等について学ぶ。				
8	まとめ					

科 目				担 当		
<b>高齢動物看護学</b>				増子元美(愛玩動物看護師)		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	15	1
<b>授業目標</b>	・ 高齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことからいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。高齢動物の生理看護の特徴について理解する。					
<b>授業概要</b>	・ 高齢動物の変化を知り、適切な食事管理と飼育管理、入院管理と在宅管理、腫瘍、僧房弁閉鎖不全症、神経系疾患、慢性腎臓病、内分泌疾患、褥瘡、認知症等後発疾患について学ぶ。					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	・ 動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ (ファームプレス)					
<b>授業計画</b>	毎週月曜日	3限目	13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容				
1	高齢動物看護の特徴	高齢動物の様々な生理的变化				
2	高齢動物の変化	経年的な特徴				
3	飼育管理	症状にあわせた各種管理法				
4	入院管理と在宅管理	入院管理と在宅管理の留意点				
5	疾病、症状別の管理	腫瘍について 心疾患 僧房弁閉鎖不全症等				
6	疾病、症状別の管理	神経系疾患について 慢性腎臓病について				
7	疾病、症状別の管理	内分泌疾患につて 褥瘡、認知症等後発性疾患				
	まとめ					

科 目				担 当		
動物皮膚病学				北島眞実子（獣医師）		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
1年	動物看護学科	前期	講義	必修	30	1
授業目標	・皮膚構造を理解し、そこに発生する皮膚病の原因、検査法治療について学ぶ。					
授業概要	・皮膚の構造と役割と痛みかゆみ等症状別の役割について理解する。					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護コアテキスト第3版 第3巻 基礎動物看護学（ファームプレス）</li> <li>動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> </ul>					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物看護師の教科書第3巻 基礎動物看護学（緑書房）</li> <li>愛玩動物看護師の教科書第5巻 臨床動物看護学（緑書房）</li> <li>講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週金曜日	4限目	15：20～16：30			
回	テーマ	授業内容				
1	皮膚とは	皮膚の構造と役割				
2	動物病院	予診 問診				
3	皮膚の検査	皮疹				
4	〃	検査の種類				
5	〃	〃 方法				
6	皮膚の代表的疾患	痒みの強もの				
7	〃	痒みの強くないもの				
8	〃	痒みを示さないものなど				
9	〃	人畜共通感染症				
10	〃	その他の皮膚疾患				
11	〃	〃				
12	シャンプー療法	シャンプーの種類 シャンプー方法				
13	耳の検査と疾患	外耳炎 など				
14	予備	復習 など				
15	予備	復習 など				



科 目				担 当		
動物病院総合実習 I				竜之介動物病院職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義・実習	必修	60	2
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価 の 方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週木曜日	1限目	9：10～10：40	2限目	10：50～12：20	
<b>回</b>	<b>テーマ</b>		<b>授業内容</b>			
	2. 動物看護業務の体験		①飼い主との適切なコミュニケーションを体験する。			
	2. 動物看護業務の体験		〃			
	3. 動物看護業務の実践		②実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する。			
	3. 動物看護業務の実践		〃			
	3. 動物看護業務の実践		③スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する。			
	3. 動物看護業務の実践		〃			
	3. 動物看護業務の実践		〃			
	3. 動物看護業務の実践		④動物看護計画を立案し、実践する。			
	3. 動物看護業務の実践		〃			
	3. 動物看護業務の実践		⑤飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する。			
	3. 動物看護業務の実践		〃			
	総合動物病院実習		総合実習			
	総合動物病院実習		総合実習			
	総合動物病院実習		総合実習			
	総合動物病院実習		総合実習			
30						

動物病院総合実習Ⅱ

科 目				担 当		
動物病院総合実習Ⅱ				竜之介動物病院職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義・実習	必修	60	2
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身につける。</li> <li>・授業内容は臨床現場の状況により変更有</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	レポート・提出物	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	50点		50点			
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教 材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第4巻 臨床動物看護学Ⅰ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護コアテキスト第3版 第5巻 臨床動物看護学Ⅱ（ファームプレス）</li> <li>・動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週火曜日	1 限目	9：10～10：40	2 限目	10：50～12：20	
<b>回</b>	<b>テーマ</b>	<b>授業内容</b>				
1	総合動物病院実習	総合実習				
2						
3	総合動物病院実習	総合実習				
4						
5	総合動物病院実習	総合実習				
6						
7	総合動物病院実習	総合実習				
8						
9	総合動物病院実習	総合実習				
10						
11	総合動物病院実習	総合実習				
12						
13	総合動物病院実習	総合実習				
14						
15	総合動物病院実習	総合実習				
16						
17	総合動物病院実習	総合実習				
18						
19	総合動物病院実習	総合実習				
20						
21	総合動物病院実習	総合実習				
22						
23	総合動物病院実習	総合実習				
24						
25	総合動物病院実習	総合実習				
26						
27	総合動物病院実習	総合実習				
28						
29	総合動物病院実習	総合実習				
30						

科 目				担 当		
プレゼンテーションスキル				高木弘和		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
2年	動物看護学科	後期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの現場ではプレゼンテーションの機会が多い。また、近年ではオンライン会議などが広がり対面ではない形でプレゼンテーションが増える機会が増えている。プレゼンテーションの目標は、相手を納得させ相手の行動変容を促すことである。そのためには「簡潔に」「分かりやすく」伝えることが重要、話す姿勢、話の構成方法、資料作成法について学ぶ。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>					
成績評価の方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週月曜日	3限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	プレゼンススキル「伝える力」	場面に応じて伝えるスキル 「なぜ？プレゼンススキルが必要か？」				
2	プレゼンススキル「伝える力」	場面に応じて伝えるスキル 「インタビューと他己紹介」				
3	プレゼンススキル「伝える力」	場面に応じて伝えるスキル 「ステップアップ他己紹介」				
4	プレゼンススキル「伝える力」	自分の事を相手に伝える「画像だけで話せる・今頑張っている事」				
5	プレゼンススキル「話の構成力」	ロジックと情報活用 「3つの柱と話の筋道を脱線しないように」				
6	プレゼンススキル「話の構成力」	ロジックと情報活用 「シンプルで分かりやすく、最初が勝負」				
7	プレゼンススキル「話の構成力」	ロジックと情報活用 「間の効果的な使い方」相手の顔に注目				
8	プレゼンススキル「話の構成力」	ロジックと情報活用 「文字や数字を詰め込みすぎない」				
9	パワーポイントプレゼンテーション	基本スキル 「文字の大きさやスライド枚数と提示時間？」				
10	パワーポイントプレゼンテーション	初級編 「聞き手を誘導する」				
11	パワーポイントプレゼンテーション	中級編 「情熱や熱意を示したり伝えたい」				
12	パワーポイントプレゼンテーション	上級編 「プレゼン後に考えてもらい、行動してもらおう」				
13	実践	「繰り返しの練習」 自信を持って伝えること。				
14	反省	「実践してどうだったか？」 自分で気づくことが大切				
15	まとめ	「自信を持って伝えたい事」「間違ってもいい。すぐに修正」				

科 目				担 当		
コミュニケーショントレーニング				福田由吏		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義・実技	必修	30	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事を円滑に進めていくためには、様々な能力が必要とされるが、なかでも「コミュニケーションスキル」は仕事で特に重要視される。より良い人間関係を維持するために、高いコミュニケーション能力は必要とされ、加えて「報・連・相」が求められる。</li> </ul>					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係を円滑にし、情報交換・共有し、相手からの協力を得るための方法を学び実践する。</li> </ul>					
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	60点			20点	20点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S (100～90)、A (89～80)、B (79～70)、C (69～60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師配付資料</li> </ul>					
授業計画	毎週金曜日	2限目	10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容				
1	コミュニケーショントレーニングとは					
2	コミュニケーショントレーニング実践	「伝える力」と「受け取る力」				
3	コミュニケーショントレーニング実践	「伝える力」と「受け取る力」				
4	コミュニケーショントレーニング実践	「伝える力」と「受け取る力」				
5	コミュニケーショントレーニング実践	言語コミュニケーション」と「非言語コミュニケーション」				
6	コミュニケーショントレーニング実践	言語コミュニケーション」と「非言語コミュニケーション」				
7	コミュニケーショントレーニング実践	言語コミュニケーション」と「非言語コミュニケーション」				
8	コミュニケーショントレーニング実践	「1対1のコミュニケーション」と「1対他のコミュニケーション」				
9	コミュニケーショントレーニング実践	「1対1のコミュニケーション」と「1対他のコミュニケーション」				
10	コミュニケーショントレーニング実践	「1対1のコミュニケーション」と「1対他のコミュニケーション」				
11	コミュニケーショントレーニング実践	仕事におけるコミュニケーションの高め方				
12	コミュニケーショントレーニング実践	仕事におけるコミュニケーションの高め方				
13	コミュニケーショントレーニング実践	仕事におけるコミュニケーションの高め方				
14	まとめ					
15	まとめ					

科 目				担 当		
ビジネスマナーⅢ				福田由吏		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義・実技	必修	30	1
<b>授業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマナーの講義を通じて、ビジネスの場で必要な基礎知識と技能を身につけ、実践できるようにする。また、インターンシップや就職面接を想定したロールプレイングを行い、社会人へ向けた準備を整える。</li> </ul>					
<b>授業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物業界のみならず、様々な場面におけるビジネスマナーを修得する。</li> </ul>					
<b>成績評価の方法・基準</b>	<b>筆記試験</b>	<b>実技試験</b>	<b>レポート・提出物</b>	<b>授業態度</b>	<b>出席状況</b>	
	60点			20点	20点	
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
<b>教材参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション・マナー&amp;キャリア・ガイダンス第3版（エデュワードプレス）</li> </ul>					
<b>授業計画</b>	毎週金曜日	2限目	10：50～12：20			
回	テーマ	授業内容				
1	まとめ	総合実習				
2	まとめ	総合実習				
3	まとめ	総合実習				
4	まとめ	総合実習				
5	まとめ	総合実習				
6	まとめ	総合実習				
7	まとめ	総合実習				
8	まとめ	総合実習				
9	まとめ	総合実習				
10	まとめ	総合実習				
11	まとめ	総合実習				
12	まとめ	総合実習				
13	まとめ	総合実習				
14	まとめ	総合実習				
15	まとめ	総合実習				

ライセンス対策Ⅲ

科 目				担 当		
ライセンス対策Ⅲ				九動職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義・演習	必修	30	1
<b>授業目標</b> <b>授業概要</b>						
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
<b>教 材</b> ・講師配付資料 <b>参考書</b>						
<b>授業計画</b> 毎週水曜日 1限目 9：10～10：40						
回	テーマ	授業内容				
1	各種検定対策	過去問題				
2	〃	〃				
3	〃	〃				
4	〃	〃				
5	〃	〃				
6	〃	〃				
7	〃	〃				
8	〃	〃				
9	〃	〃				
10	〃	〃				
11	〃	〃				
12	〃	〃				
13	〃	〃				
14	〃	〃				
15	〃	〃				

統合演習 I

科 目				担 当		
統合演習 I				九動職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	前期	講義	必修	210	7
授業目標 授業概要						
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。 ※評価は、S (100~90)、A (89~80)、B (79~70)、C (69~60) とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。						
教 材 参考書						
授業計画	毎週火曜日	4限目	15:00~16:30			
	毎週水曜日	3限目	13:20~14:50	4限目	15:00~16:30	
	毎週木曜日	3限目	13:20~14:50	4限目	15:00~16:30	
	毎週金曜日	1限目	9:10~10:40	3限目	13:20~14:50	
回	テーマ	授業内容				
1	国試模擬試験					
2	国試模擬試験					
3	国試模擬試験					
4	国試模擬試験					
5	国試模擬試験					
6	国試模擬試験					
7	国試模擬試験					
8	国試模擬試験					
9	国試模擬試験					
10	国試模擬試験					
12	国試模擬試験					
13	国試模擬試験					
14	国試模擬試験					
15	国試模擬試験					

統合演習Ⅱ

科 目				担 当		
統合演習Ⅱ				九動職員		
対象年次	学 科	開講時期	授業形態	選択/必修	授業時間	設定単位
3年	動物看護学科	後期	講義	必修	300	10
授業目標 授業概要						
成績評価 の 方法・基準	筆記試験	実技試験	レポート・提出物	授業態度	出席状況	
	100点					
<p>※本科目の試験、また、評価・単位認定を受けるには、出席率が3分の2以上であることが必要となる。</p> <p>※評価は、S（100～90）、A（89～80）、B（79～70）、C（69～60）とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし、評価はCとなる。</p>						
教 材						
授業計画	毎週月曜日	4限目	15:00～16:30			
	毎週水曜日	3限目	13:20～14:50	4限目	15:00～16:30	
	毎週木曜日	1限目	9:10～10:40	3限目	13:20～14:50	
		2限目	10:50～12:20	4限目	15:00～16:30	
	毎週金曜日	1限目	9:10～10:40	3限目	13:20～14:50	
回	テーマ	授業内容				
1	国試模擬試験	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">}</span> <span style="font-size: 2em;">×10</span> </div>				
2	国試模擬試験					
3	国試模擬試験					
4	国試模擬試験					
5	国試模擬試験					
6	国試模擬試験					
7	国試模擬試験					
8	国試模擬試験					
9	国試模擬試験					
10	国試模擬試験					
12	国試模擬試験					
13	国試模擬試験					
14	国試模擬試験					
15	国試模擬試験					



